三重県埋蔵文化財年報17

昭和61年度

1987.3

三重県教育委員会

例　　言

1. この年報は、昭和６１年度における県内の埋蔵文化財保護行政と調査の概要をまとめたものである。

2. Ⅲの緊急調査現状のうち、２・緊急発堀調査の概要は、それぞれの発掘担当者による。

3. 本書の編集は、文化課文化財第一係埋蔵文財担当においておこなった。

Ⅰ　土地利用と埋蔵文化財 …… 1
1.　市町村総合計画（案）等の事前審査 …… 1
2.　民間企業等の開発計画の事前協議 …… 1
3.　国の機関等の開発計画の事前協議 …… 4

Ⅱ　埋蔵文化財保護体制の強化 …… 12
1.　埋蔵文化財整理所 …… 12
2.　文化財パトロール …… 12
3.　埋蔵文化財発掘技術者研修 …… 15
4　埋蔵文化財担当者の研修 …… 17
5.　文化財保護連絡会議 …… 17

Ⅲ　緊急調査の現状 …… 19
1.　緊急発掘調査 …… 19
2.　緊急発掘調査の概要 …… 22

Ⅳ　調査結果の公開 …… 76
1.　三重県埋蔵文化財展 …… 76
2.　近畿自動車道発掘調査報告書 …… 76
3.　発掘遺跡現地説明会 …… 78
4.　保管遺物等の貸出し・写真等の掲載許可 …… 80

〈付〉
〔1〕開発と文化財の取扱いについての調整・調査等に関する事務処理等の標準についての文化庁通知 …… 87
〔2〕三重県文化財調査員設置要綱 …… 90
〔3〕昭和61年度三重県文化財調査員一覧表 …… 91
〔4〕昭和61年度三重県文化財パトロール実施要項 …… 93
〔5〕昭和61年度埋蔵文化財発掘技術者研修実施要項 …… 96
〔6〕文化財保護の指導要項 …… 97
〔7〕埋蔵文化財発掘通知・届出一覧表 …… 100
〔8〕三重県埋蔵文化財認定通知物件 …… 104

土地利用と埋蔵文化財

1. 市町村総合計画（案）等の事前審査

市町村総合計画及び広域市町村圏計画の策定に際して、埋蔵文化財保護に特に配慮するよう県総務部地方課に指導方を依頼している。その際留意すべき事項は、次のとおりである。

基本構想において、(1) 文化財保護の有無

(2) 埋蔵文化財包蔵地一覧表等による現状把握の有無

(3) 遺跡の周知徹底の明記の有無

2. 民間企業等の開発計画の事前協議

民間企業による各種土地開発事業と埋蔵文化財の保護については、関係諸法令要綱等によって取扱い方針が定められている。その具体的な取扱いについては、「文化財保護の指導要項」（『三重県開発事業指導に関する計画設計の技術基準』所収）（Ｐ９７）及び、昭和５５年9月１９日付け、教文第５２０号、三重県教育委員会教育長から各市町村教育委員会教育長宛通知によっている。

事業者は、事業の計画段階で市町村教育委員会へ、計画地内における周知の遺跡の有無の照会（遺跡地図、遺跡台帳との照合）と現地での遺跡分布調査の依頼を行う。これを受けて分布調査を実施した市町村教育委員会は、調査結果を事業者に通知する。埋蔵文化財が確認された場合には、前記文化財保護の指導要項に基づく保存方法についての協議を行い、そのことを文化財保護措置書（Ｐ９８）の形で、事業者から市町村教育委員会教育長へ提出する。

文化財調査報告書及び文化財保護措置書については、県教育委員会へその写し１部をもって報告することになっている。

〔開発行為事前設計協議（土木部）〕

番号	種　　別	事業者名	事　業　地	事業面積	協議年月日	備考
1	国際会議場 宿泊施設	㈱ニュースプリング	鳥羽市安楽島町	68,882㎡	開第1405号 61. 10. 13 ㊇61. 10. 25	

〔開発行為に伴う設計協議（土木部）〕

番号	種　　別	事業者名	事　業　地	事業面積	協議年月日	備考
1	住宅団地	日本道路㈱ 大和開発㈱	津市大字野田 津市大字神戸	284,359.31㎡	開第 450号 61. 4. 4 ㊇61. 4. 22	
2	ゴルフ場	福王企業㈱	菰野町大字田口	1,004,295㎡	開第 613号 61. 4. 30 ㊇61. 5. 6	
3	レジャー施設	奥志摩観光開発㈱	浜島町大字迫子	28,025㎡	開第1002号 61. 7. 23 ㊇61. 7. 31	
4	ゴルフ練習場	磯貝邦夫 蒔田誠明	多度町大字小山	20,178㎡	開第 870号 61. 9. 5 ㊇61. 9. 10	
5	ゴルフ場	四日市セントラル開発㈱	四日市市内山町	1,057,630㎡	開第1266号 61. 9. 16 ㊇61. 9. 25	
6	住宅団地	三交不動産㈱	津市河辺町 津市長岡町	414,136㎡	開第1269号 61. 9. 16 ㊇61. 9. 25	
7	ゴルフ場	寿興業㈱	鳥羽市般津町 鳥羽市鳥羽町	1,535,284㎡	開第1305号 61. 9. 22 ㊇61. 9. 30	
8	運動公園	阿山町長	阿山町大字川合	57,073㎡	開第1477号 61. 10. 28 ㊇61. 11. 6	
9	工　　場	多度町土地開発公社	多度町大字御衣野	167,021㎡	開第1488号 61. 10. 28 ㊇61. 11. 6	
10	国際会議場 宿泊施設	㈱ニュースプリング	鳥羽市安楽島町	68,883㎡	開第1509号 61. 11. 4 ㊇61. 11. 14	
11	ゴルフ場	鈴峰企業㈱	鈴鹿市伊船町	408,837㎡	開第1559号 61. 11. 13 ㊇61. 11. 20	
12	ホテル	奥志摩観光㈱	浜島町大字迫子	44,670㎡	開第1577号 61. 11. 18 ㊇61. 11. 27	
13	住宅団地	近畿日本鉄道㈱	津市大字垂水	439,780㎡	開第1582号 61. 11. 19 ㊇61. 11. 27	

番号	種　　別	事業者名	事　業　地	事業面積	協議年月日	備考
14	工　　場	富士製作所	上野市荒木	171,999㎡	開第1639号 61. 12. 1 ㊇ 61. 12. 17	
15	工業団地	三重県土地開発公社	久居市森町	262,000㎡	開第1668号 61. 12. 8 ㊇ 61. 12. 9	
16	工業団地	鈴鹿市土地開発公社	鈴鹿市徳田町 鈴鹿市御薗町	415,033㎡	開第1731号 61. 12. 23 ㊇ 62. 1. 14	
17	霊　　園	宗教法人 龍泉寺	津市大字半田	51,635㎡	開第1735号 61. 12. 24 ㊇ 62. 2. 14	
18	墓　　地	宗教法人 乗渓寺	白山町大字垣内	423,976㎡	開第 121号 62. 1. 21 ㊇ 62. 1. 28	
19	工場団地	津市土地開発公社	津市片田新町	469,309㎡	開第 163号 62. 1. 28 ㊇ 62. 2. 10	
20	ゴルフ場	㈱セブンレイクス	上野市上郡・下郡 森寺・鍛冶屋	1,074,552㎡	開第 175号 62. 2. 2 ㊇ 62. 2. 10	
21	工　　場	常盤ステンレス㈱	上野市猪田	29,426㎡	開第 370号 62. 3. 11 ㊇ 62. 3. 20	
22	公園墓地	創価学会	白山町大字藤	423,000㎡	開第 398号 62. 3. 18 ㊇ 62. 3. 27	
23	工場用地	四日市市土地開発公社	四日市市山田町	317,605㎡	開第 399号 62. 3. 18 ㊇ 62. 3. 31	
24	住宅団地	菱水産業㈱	安濃町大字妙法寺	71,023㎡	開第 432号 62. 3. 24 ㊇ 62. 3. 31	
25	工場用地	亀山市土地開発公社	関町大字会下	845,920㎡	開第 407号 62. 3. 24 ㊇	

〔三重県土地利用対策委員会幹事会（企画調整部）〕

番号	種　　別	事業者名	事　業　地	事業面積	協議年月日	備考
1	ゴルフ場	福王企業㈱	菰野町大字田口	1,004,295㎡	土地利第44号 61. 4. 9 ㊇ 61. 4. 18	
2	ゴルフ場	四日市セントラル開発㈱	四日市市内山町	575,249㎡	土地利第10号 61. 5. 10 ㊇ 61. 5. 23	

番号	種　　別	事業者名	事　業　地	事業面積	協議年月日	備考
3	工場用地	南建設㈱	河芸町大字三行	56,560㎡	土地利第15号 61. 7. 7 ㊇ 61. 7. 30	
4	工場用地	安田産業㈱	伊賀町大字拓植	68,672㎡	土地利第15号 61. 7. 7 ㊇ 61. 7. 30	
5	研究所用地	久保田鉄工㈱	上野市治田	275,825㎡	土地利第16号 61. 8. 8 ㊇ 61. 8. 25	
6	ゴルフ場	名阪観光㈱	上野市上郡	1,095,000㎡	土地利第16号 61. 8. 8 ㊇ 61. 8. 25	
7	ゴルフ場	東急建設㈱	四日市市水沢町 菰野町大字菰野	1,285,633㎡	土地利第16号 61. 8. 8 ㊇ 61. 8. 25	
8	住宅用地	中部開発㈱	松阪市岡本町 藤ノ木町、円生寺町	407,372㎡	土地利第22号 61. 9. 3 ㊇ 61. 9. 25	
9	住宅用地	大和ハウス㈱	津市高野尾	356,036㎡	土地利第22号 61. 9. 3 ㊇ 61. 9. 25	
10	公園墓地	創価学会	白山町大字藤	483,600㎡	土地利第26号 61. 10. 22 ㊇ 61. 11. 11	
11	分譲別荘地	近鉄不動産㈱	浜島町大字迫子	104,933㎡	土地利第28号 61. 12. 2 ㊇ 62. 1. 12	
12	遊園・スポーツ施設	明和興産	四日市市北山町	209,342㎡	土地利第28号 61. 12. 2 ㊇ 62. 1. 12	
13	ゴルフ場	㈱ナガシマクラブ	員弁町大字市之原	997,280㎡	土地利第28号 61. 12. 2 ㊇ 62. 1. 12	
14	ゴルフ場	大倉建設㈱ 平城開発㈱	白山町大字川口	1,948,500㎡	土地利第11号 62. 2. 19 ㊇ 62. 3. 26	
15	ゴルフ場	鈴鹿の森観光開発㈱	鈴鹿市西庄内	758,231㎡	土地利第11号 62. 2. 19 ㊇ 62. 3. 20	

3. 国の機関等の開発計画の事前協議

文化課では、前年度中あるいは年度当初に開発関係行政機関に対し、事業計画を照会するとともに、埋蔵文化財が事業地内に存在する場合はその保護について当課と十分に協議するよう申し入れをしている。

(1) 農業基盤整備事業等

農業基盤整備事業には、県営圃場整備事業、県営一般農道整備事業、各種

農免道路整備事業等の県が事業主体となるものと、団体営圃場整備事業、団体営農道整備事業等の市町村が事業主体となるものに分けられる。

中でも圃場整備事業は事業地が広大な面積（面）に及び、また近年は平野部の整備が終り、山間部へ展開しているため、必然的に遺跡にかかる件数と面積は増加の傾向を示している。

今年度の県営圃場整備事業を例にとると、事業総面積639*ha*の中で試掘調査の結果51遺跡、面積にして約480,000㎡もの遺跡が所在することが確認された。

この結果にもとづき、農村整備課及び各事務所と再三協議を重ね、盛土等の工事対応により遺跡保護に努めた結果、計32件約60,110㎡（うち執行委任分47,170㎡）の遺跡については削平部分、排水路・道路部分に限りやむをえず発掘調査を実施した。

また、農道整備事業では、3件約8,550㎡の発掘調査を実施し、その他の農業基盤整備事業で3件約550㎡の試掘調査、立合調査を実施した。

調査の実施にあたっては、県教育委員会が主体となり菰野町遺跡調査会、阿山町遺跡調査会、久居市教育委員会及び明和町の協力を得て実施した。

事業名	農林事務所	地区	事業面積（*ha*）	遺跡名	所在地	遺跡面積（㎡）	措置
県営圃場整備事業	桑名	藤原東部	12	－	員弁郡藤原町川合	6,000	試掘、工事可
				観成寺遺跡	〃 〃 上相馬	200	〃 立合調査（3,900㎡）
		員弁	28	奥田A遺跡	〃 員弁町東一色	10,000	試掘
				奥田B遺跡	〃 〃 〃	14,000	〃 本調査（380㎡）
				大谷遺跡	〃 〃 〃	36,700	〃 〃（3,120㎡）
				半之木遺跡	〃 〃半之木	7,700	〃
				岡山遺跡	〃 〃岡山	7,000	〃 本調査（1,400㎡）
				－	〃 〃上笠田	－	
				－	〃 〃岡・丁田	－	

事業名	農林事務所	地区	事業面積（ha）	遺跡名	所在地	遺跡面積（㎡）	措置
県営圃場整備事業	桑名	大安東部	7	－	員弁郡大安町平塚・梅戸	－	事業変更
				大貝戸遺跡	〃 〃門前	14,000	試掘・立合調査（290㎡）
				薬師前遺跡	〃 〃門前	5,600	〃 〃（40㎡）
		大安西部	35	社護地塚	〃 〃石榑東	10	〃 〃（10㎡）
	四日市	八風	52	下江平遺跡	三重郡菰野町江平	200,000	試掘・〃（6,300㎡）本調査（2,400㎡）
				－	〃 〃竹成	－	〃
		合川・下之庄	20	橋門遺跡	鈴鹿市三宅町	13,000	〃 本調査（3,520㎡）
				長法寺4号墳	〃 〃		地区除外
	津	穴倉川沿岸	5	連部城跡	安芸郡安濃町蓮部	－	〃
				今徳A遺跡	〃 〃今徳	－	試掘
				今徳B遺跡	〃 〃〃	3,000	〃 ・立合調査（230㎡）
				今徳C遺跡	〃 〃〃	1,000	〃 〃（160㎡）
		美里中南部	24	向出遺跡	〃 美里村家所	4,000	〃 工事可
				神ノ宅遺跡	〃 〃〃	4,000	試掘 立合調査（630㎡）
				上原ケ遺跡	〃 〃南長野	10,000	〃 本調査（1,100㎡）
		久居	14	稲葉遺跡	久居市稲葉町	9,000	〃 〃（3,100㎡）立合調査（540㎡）
		久居二期	9	－	〃 一色町	－	
		白山西部	19	算所遺跡	一志郡白山町算所	3,600	試掘・本調査（1,000㎡）
				－	〃 〃山田野	－	〃
				上出遺跡	〃 〃〃	4,000	試掘・立合調査（890㎡）
		中郷	9	東野A遺跡	〃 嬉野町森本	2,300	〃 工事可
				東野B遺跡	〃 〃〃	5,700	〃 62年度本調査（5,700㎡）
				東野C遺跡	〃 〃〃	8,500	〃 本調査（2,200㎡）
				東野D遺跡	〃 〃〃	4,200	〃 工事可
				屋敷田遺跡	〃 〃〃	6,000	〃 立合調査（400㎡）
		芸濃南部	11	大屋垣内遺跡	安芸郡芸野町萩野	20,000	〃 〃（250㎡）
	松阪	堀坂川沿岸	12	杉垣内遺跡	松阪市深長町	37,000	試掘・本調査（4,330㎡）
				深長古墳	〃 〃	2,100	〃 〃（1,500㎡）現状保存
				堂ノ後遺跡	〃 〃	6,000	〃 本調査（4,000㎡）

事業名	農林事務所	地区	事業面積（ha）	遺跡名	所在地	遺跡面積（㎡）	措置
県営圃場整備事業	松阪	堀坂川沿岸	12	本堂遺跡	松阪市深長町	2,100	試掘・本調査（1,060㎡）
				西沖遺跡	〃 野村町	13,600	〃 立合調査（400㎡）
				赤城遺跡	〃 〃	6,600	試掘・本調査（500㎡）
		斎宮	16	寺垣内遺跡	多気郡明和町金剛坂	8,500	〃 〃（7,600㎡）
		上御糸	11	－	〃 〃 上御糸	－	
		東黒部	16	柿木原遺跡	松阪市柿木原町	16,000	条里溝50年度立合調査
		明星	11	東野遺跡	多気郡明和町東野	－	試掘・工事可
	伊勢	伊勢南部	10	北垣内遺跡	伊勢市津村町	3,000	〃 〃
		村松	15	－	〃 村松町	－	〃 〃
		度会	8	－	度会郡度会町一之瀬	－	〃 〃
	上野	上野南部第二	17	北裏遺跡	上野市沖	2,700	〃 〃
		上野南部第三	14	森小場遺跡	〃 下神戸	3,000	
		上野東部	23	安田氏館跡	〃 界外	2,500	試掘・本調査（2,000㎡）
				塚本館跡	〃 〃	3,900	〃 〃（3,000㎡）
				四ノ坪遺跡	〃 上友生	2,000	試掘・立合調査（480㎡）
		大山田第二	11	元町遺跡	阿山郡大山田村上阿阪	2,300	試掘・工事可
		河合	18	北中溝遺跡	〃 阿山町円徳院	2,500	〃 〃
				新田遺跡	〃 〃 〃	2,500	〃 〃
		赤目	21	中戸遺跡	名張市赤目町相楽	3,000	〃 本調査（1,600㎡）
				下垣内遺跡	〃 〃 星川	3,200	〃 〃（1,000㎡）
				滝野氏城跡	〃 〃 相原	1,000	地区除外
				横山5号墳	〃 〃 〃		消滅・工事可
				宮城1号墳	〃 〃 〃		地区除外
				宮城4号墳	〃 〃 〃		〃
				宮城5号墳	〃 〃 〃		〃

事業名	耕地事務所	地区	事業内容	遺跡名	所在地	遺跡面積(㎡)	措置
県営畜産経営環境整備事業	伊勢	度会		竹野鼻遺跡	度会郡大宮町	12,000	試掘・立合調査（570㎡）
県営農林漁業用揮発油税財源身替農道整備事業	上野	大山田南部二期		向山6号墳	阿山郡大山田村平田	横穴式石室古墳1基	本調査（250㎡）
	〃	〃		下中島古墳群	〃 〃	古墳	〃（600㎡）
	〃	友田第二期		菊永氏城跡	〃 阿山町上友田	7,700	本調査（7,700㎡）
広域営農団地基幹農道整備事業	四日市	（フラワーロード）		－	鈴鹿市伊船町		試掘・工事可
		北勢南部					
		〃		－	鈴鹿市三宅町		〃 〃

⑵　道路改良、河川改修等

①　道路改良事業、河川改修事業にかかる文化財の保護については、その性格上路線計画段階での調整を要請しているところであるが、大幅な路線変更や用地問題のため困難な点も多い。最終路線決定後、試掘調査を実施し、その結果に基づき最少限の範囲について事前に発掘調査を実施している。しかし路線決定、用地買収等の事情により工事着手時が未定のものが多く、ほとんど協議中となっている。

本年度実施した発掘調査は、道路関係７件、嬉野町遺跡調査会、松阪市教育委員会の協力を得て調査を実施した。

事務所	事業名	遺跡名の名称	所在地	面積（㎡）	措置	備考
久居	嬉野飯高線	四反畑遺跡	一志郡嬉野町中川	8,000／8,000	本調査	嬉野町遺跡調査会
松阪	丹生寺一志線	鍛冶屋上相田遺跡	松阪市伊勢寺町	1,200／8,300	〃	松阪市教育委員会
	〃	五輪山古墳群	〃　岡山町	800／1,000	〃	〃
	合ケ野松阪線	曲遺跡	〃　曲町	2,900／9,300	〃	〃
伊勢	田丸（T）斎明線	砂谷遺跡	度会郡玉城町日向	270／1,250	〃	玉城町教育委員会
上野	甲南上野線	東山古墳桶先城跡	阿山郡阿山町円徳院	1,100／3,750	〃	東山古墳・工法変更で現状保存
〃	国道368号	四国山遺跡	上野市山出	1,600／3,200	〃	
津	家所阿漕（T）線	神戸遺跡	津市神戸	56／1,650	試掘	要本調査（1,650㎡）
久居	丹生寺一志線	片野遺跡	一志郡嬉野町	40／	〃	工事施行可
志摩	的矢大王線	東海道遺跡	志摩郡阿児町国府	88／3,100	〃	要本調査（3,100㎡）
久居	碧川改修	南曽原遺跡	一志郡三雲町	108／1,000	〃	工事施行可
四日市	田光四日市線		菰野町田光	160／200,000	〃	〃

土木部関係協議中遺跡（昭和６１年度）

〈道路建設課〉

道路	路線名	遺跡名	所在地	面積(m)	概要備考
桑名	国道３６５号	大久保城跡	員弁郡大安町片桶		中世城館　土塁
	国道４２１号	石榑南遺跡	〃　〃　石榑	2,000	
四日市	四日市土山線	宮ノ前遺跡	四日市市高角町	5,600	
鈴鹿	亀山(T)石水渓線	安楽Ａ遺跡	亀山市安楽	4,000	
	〃	安楽Ｂ遺跡	〃　〃		
	国道３０６号	小下遺跡	〃　小下町	3,600	
	〃	東樺野古墳	〃　樺野町	150	
	〃	東樺野遺跡	〃　〃	2,500	
	〃	下之庄Ａ遺跡	〃　下之庄	2,700	
	〃	下之庄Ｂ遺跡	〃　〃	1,300	
	〃	高佐遺跡	安芸郡河芸町	2,500	
津	津関線	大古曽遺跡	津市一身田大古曽	1,300	
	家所阿漕停車場線	神戸遺跡	〃　神戸	1,650	
	穴倉南神山線	南神山７号墳	安芸郡安濃町南神山	100	
津・久居	片田井戸久居線	田中古墳群	津市片田井戸町	300	
久居	一志出家線	高寺遺跡	一志郡一志町高野	L=300m	
	亀山白山線	松本遺跡	久居市榊原	4,000	
	〃	浜ノ田遺跡	〃　〃	11,000	
	松阪久居線	平生南遺跡	一志郡嬉野町平生	2,500	
松阪	伊勢魚見松阪線	西浦遺跡	多気郡明和町西行部	2,400	
	松阪第二環状線	山室Ａ遺跡	松阪市山室町	2,000	
	松阪第二環状線	山室Ｂ遺跡	〃　〃		
	〃	上蛸路Ａ遺跡	〃　上蛸路町	500	
	〃	上蛸路Ｂ遺跡	〃　〃		

道路	路線名	遺跡名	所在地	面積(㎡)	概要備考
松阪	御麻生園豊原線	閑浄寺遺跡	松阪市豊原町	4,800	
	国道167号	浜畑遺跡	度会郡二見町江	2,500	
	度会玉城線	勝田遺跡	〃 玉城町勝田	2,400	
	田丸(T)斎明線	砂谷遺跡	〃 〃 日向	880	
志摩	安乗港線	国府城跡	志摩郡阿児町国府	3,600	
	〃	御茶子遺跡	〃 〃 〃	2,500	
	的矢大王線	東海道遺跡	〃 〃 〃	3,100	
上野		四ノ切城跡	名張市蔵持町	10,000	

（都市計画課）

道路	路線名	遺跡名	所在地	面積(㎡)	概要備考
四日市	中央緑地公園	丸岡遺跡	四日市市西村町		
津	豊里久居線	峰治城跡	津市上津部田	4,800	
	〃	小舟古墳	〃 〃	5,300	
松阪	大平尾外五曲線	川井町遺跡	松阪市川井町		

（河川線）

津	天神川改修	己ノ谷遺跡	津市高茶屋		

（砂防課）

桑名	新沢川	宇賀神社古墳群	桑名郡多度町柚井		

事業者	事業名	遺跡名称	所在地	面積	措置	備考
建設省	一級河川中村川改修	下之庄東方遺跡	嬉野町下之庄	㎡ 5,700	発掘調査	
建設省	国道一号亀山バイパス建設	大鼻遺跡 ほか	亀山市大岡寺町ほか	7,900	発掘調査	2遺跡
日本道路公団	近畿自動車道関、伊勢線建設	牧瓦窯群 ほか	多気町牧 ほか	24,513	発掘調査	16遺跡

Ⅱ　埋蔵文化財保護体制の強化

1.　分室・埋蔵文化財整理所

津市、上野市、松阪市、亀山市内及び嬉野町に分室・埋蔵文化財整理所があり出土遺物の収蔵、発掘調査記録類の保管、整理作業及び報告書作成などにあたっている。

○　藤方分室　　津市藤方２２８３－１

（電）　０５９２－２４－４５６０

○　埋蔵文化財桜橋整理所

所在地　　津市桜橋２丁目

（電）　０５９２－２７－２４６５

○　埋蔵文化財上野整理所

所在地　　上野市丸之内１１７

（電）　０５９５－２４－００７９

○　近畿自動車道埋蔵文化財発掘調査整理所

所在地　　松阪市丹生寺町６３０

（電）　０５９８－５８－０２８３

○　一般国道１号亀山バイパス埋蔵文化財発掘調査整理所

所在地　　亀山市和田町字西野１２７８－９

（電）　０５９５８－２－２５８１

○　中村川埋蔵文化財発掘調査整理所

所在地　　一志郡嬉野町川北５８０

農業技術センター内

（電）　０５９８４－２－４８０２

2.　文化財パトロール

昭和６１年度の文化財パトロールは、小中高の教員及び民間有識者５０名を三重県文化財調査員として委嘱し、実施した。（設置要綱等Ｐ９０～９５）

(1) 開発計画と文化財パトロール

総パトロール件数1,183件で、内埋蔵文化財関係は1,074件である。通常の文化財確認調査に加えて県の開発事業にかかる埋蔵文化財の分布調査を依頼しており、今後とも公共事業地内のパトロールを強化していく予定である。

民間開発事業については、市町村が独自に予定地内の分布調査を実施しており、埋文担当者のいない市町村でも保護措置書の提出がふえている。

(2) 文化財の実態確認

文化財パトロールによる新発見遺跡は８０件あった。特に松阪、上野管内での新発見が目立ち、上野市西条の石打古墳群はこれまで１１基とされていたのが、分布調査の結果約５０基になるとの報告がなされている。これらについては、すでに遺跡カードへの記入がなされているものもあるが、未整理のものについては、早急に台帳等へ記入し、整備したい。

指定文化財に対する巡視件数は１０９件あり、その半数は天然記念物関係である。

昭和６１年度文化財パトロール実施件数

種類／月	建造物美工等	史　跡	名　勝	天然記念物	埋蔵文化財	計
4	0	0	0	1	0	1
5	0	0	0	0	3	3
6	0	0	0	1	2	3
7	0	0	0	2	32	34
8	7	5	0	15	93	120
9	9	1	0	3	184	197
10	3	2	0	4	95	104
11	9	3	0	5	103	120
12	10	2	0	9	125	146
1	1	0	0	9	203	213
2	1	0	0	3	155	159
3	2	1	0	1	79	83
計	42	14	0	53	1,074	1,183

(3) 市町村文化財パトロール

（四日市市文化財パトロール調査員名簿）

氏　名	住　所	郵便番号	電　話	勤務先	電　話
岡田　健				三重北小教諭	
桐生定己				西笹川中教諭	
加田勝敏					
片岡雅章				桑名高校教諭	
樋尾重雄					
加藤淳次				大池中教諭	
中根真帆				西笹川中教諭	
増地陽一				西朝明中教諭	

（津市埋蔵文化パトロール委員名簿）

氏　名	所　属	住　所	電　話
浅生悦生	一身田中学校		
福田和憲	〃		
恒河哲人	櫛形小学校		
本多史和	新町小学校		
奥山浩良	栗真小学校		
斎藤　実	橋北中学校		
小坂宣広	〃		
本多　巌	三重大原史古代史部会		
池田淳二	南立誠小学校		
森田正美	〃		

（菰野町文化財パトロール員）

氏　名	住　所	生年月日	電話番号	備　考
1 大塚秀樹				
2 萩　良樹				
3 田中利秋				
4 諸岡敏文				
5 鎌田雅生				

3. 埋蔵文化財発掘技術者研修

埋蔵文化財の調査に関する専門的知識と技術の向上を目的とした研修事業は、昭和４２年度以来、学校職員を対象として夏期に県外の研究機関に派遣して実施してきた。しかし短期間の研修では不十分であるため、昭和５４年度からは研修事業を強化拡大し、県外３カ月、県内９カ月の１カ年研修を実施している。

昭和６１年度研修生

山田　芳昭　（桑名市立　城南小学校教諭）

広岡　貞之　（名張市立　すずらん台小学校教諭）

森川　常厚　（津市立　西橋内中学校教諭）

（昭和６１年度研修内容）

月	県内研修		県外研修
4	○ 分布調査実習	○ 遺跡見学	
5	○ 発掘調査実習（斎宮跡）		
	○ 地形測量実習（上野市　安田氏館跡）		
6	○ 発掘調査実習（斎宮跡）		
7	○ 〃（明和町神殿遺跡）		○平城宮跡発掘調査部
8	○ 〃（〃　〃）		○ 〃
9	○ 〃（〃　〃）		○ 〃
10	○ 〃（嬉野町東野遺跡）		○飛鳥藤原宮跡発掘調査部
11	○ 〃（〃　〃）		○ 〃
12	○ 〃（〃　〃）		○ 〃
1	○ 報告書作成実習（神殿遺跡、東野遺跡）	○ 室内講義	
2	○ 〃（〃　〃）		
3	○ 〃（〃　〃）		

（室内講義内容）

月・日	内　　容	担　　当	場　　所
4. 7	○埋蔵文化財発掘技術者研修	係長　中森　英夫	文化課藤方分室
4. 7	○発掘調査の事務手続	主事　駒田　利治	〃
4. 7	○分布調査	主事　倉田　守	〃
5. 12	○測量調査	技師　吉水　康夫	上野市安田氏館跡
		主事　倉田　直純	
1. 12	○県内考古学の現状	係長　伊藤　久嗣	文化課藤方分室
〃	○縄文土器	主事　田村　陽一	〃
〃	○弥生土器	技師　吉水　康夫	〃
1. 13	○須恵器	主幹　山沢　義貴	〃
〃	○土師器（古代）	主事　倉田　直純	〃
1. 14	○灰釉陶器	主事　倉田　守	〃
〃	○中世陶器（前期）	主事　増田　安生	〃
〃	○中世陶器（後期）	主事　久志本鉄也	〃
1. 16	○瓦	技師　山田　猛	〃
1. 16	○金属器	主事　仁保　晋作	〃
1. 17	○木製品	技師　野原　宏司	〃
1. 17	○考古学と文化財保護	係長　中森　英夫	〃
3. 20	○土師器（中世）	技師　新田　洋	〃

4. 埋蔵文化財担当者の研修

(1) 三重県内埋蔵文化財担当者会議

県及び市町村の教育委員会に配置されている埋蔵文化財担当者に対する研修会を、隔月に開催地を順次交替して開催している。

この研修会は県文化課、県斎宮跡調査事務所、市町村教育委員会、県文化課埋蔵文化財発掘技術者研修生の全員参加を原則としており、埋蔵文化における行政上の諸問題、調査方法、調査結果等について情報交換及び討議を行なった。また、調査中の遺跡や文化財にかかる諸施設の見学も行った。

開催日	開催場所	見学先など
第1回 61. 4. 17(木)	三重県合同ビル	
第2回 61. 6. 27(金)	阿山町役場	菊永氏城跡、御旅古墳、桶先城跡、東山古墳、向山古墳
第3回 61. 8. 2(土)	松阪市中央公民館	近畿自動車道埋蔵文化財発掘調査報告会、講演会
第4回 61. 10. 24(金)	朝日町中央公民館	縄生廃寺、朝日町資料館、桑名市美術博物館、山田遺跡下江平遺跡
第5回 61. 12. 19(金)	一志町役場	片野池2号墳、四反畑遺跡、下之庄東方遺跡
第6回 61. 1. 30(金)	津市役所	専修寺、第6回埋蔵文化財展

5. 文化財保護連絡会議

(1) 趣旨

本県内において行われる住宅造成、農業基盤整備、道路建設等の開発事業にかかる埋蔵文化財の取り扱いに関する連絡を強化し、事前協業等における文化財の確認、事務を円滑に行い、文化財保護の充実を図る。

(2) 昭和61年度第1回文化財保護連絡会議

・開催日

教育事務所	開催日時		場所
北勢	7月 3日(木)	13:30～15:30	県四日市庁舎5階第8会議室
中勢	7月 1日(火)	13:30～15:30	県津庁舎4階第6会議室
松阪	7月 7日(月)	13:30～15:30	県松阪庁舎6階大会議室
南勢志摩	7月11日(金)	13:30～15:30	県伊勢庁舎3階大会議室
上野	7月 8日(火)	13:30～15:30	県上野庁舎1階第1会議室
尾鷲・熊野	6月26日(木)	13:30～15:30	県尾鷲庁舎3階第3会議室

・協議内容

① 文化財保護の概要

② 開発にかかる埋蔵文化財の取り扱いについて

③ 各種開発事業計画と埋蔵文化財

（県及び市町村）

④ その他

・出席者

各県民局、各農林事務所、各土木事務所、各教育事務所

各市町村開発関係課　各市町村教育委員会　県教育委員会

(3) 昭和６１年度第２回文化財保護連絡会議

・開催日

教育事務所名	開催日時	場所
北勢	1月20日(火) 13：30～16：00	県四日市庁舎５階第８会議室
中勢	1月22日(木) 13：30～16：00	県津庁舎４階第６会議室
松阪	1月26日(月) 13：30～16：00	県松阪庁舎２階第１会議室
南勢志摩	1月19日(月) 13：30～16：00	県伊勢庁舎２階第２会議室
上野	1月16日(金) 13：30～16：00	県上野庁舎３階第４会議室
尾鷲	1月23日(金) 13：30～16：00	県熊野庁舎５階第９会議室
熊野	1月23日(金) 13：30～16：00	〃

・協議内容

① 昭和６２年度各種公共事業に伴う埋蔵文化財の取扱いについて

② 市町村及県の現状と昭和６２年度事業計画について

③ 市町村職員の研修について

④ 宅地開発事業に伴う埋蔵文化財の取扱いに関する手引（暫定版）

・出席者

各教育事務所、各市町村教育委員会、三重県文化財調査員

Ⅲ　緊急調査の現状

1.　緊急発掘調査

本年度は県教育委員会が主体となって実施したものは５０件、市町村教育委員会が主体のもの１７件、遺跡調査会が主体のもの８件で、総数７５件の発掘調査があった。今年度も圧倒的に公共事業によるものが多い。調査体制、出土品の収蔵・保管などについては多くの問題を抱えている。

遺跡名	所在地	原因	調査主体	費用負担
観成寺跡	員弁郡藤原町大字上相場字観成寺	県営圃場整備事業	県教委	県農林水産部 県教育委員会
社護地塚遺跡	員弁郡大安町大字石榑東楠ノ木	県営圃場整備事業	県教委	県農林水産部 県教育委員会
薬師前遺跡	員弁郡大安町大字門前字薬師前	県営圃場整備事業	県教委	県農林水産部 県教育委員会
大貝戸遺跡	員弁郡大安町大字門前字大貝戸	県営圃場整備事業	県教委	県農林水産部 県教育委員会
岡山遺跡	員弁郡員弁町大字東一色字岡山	県営圃場整備事業	県教委	県農林水産部 県教育委員会
大谷遺跡	員弁郡員弁町大字東一色字奥田	県営圃場整備事業	県教委	県農林水産部 県教育委員会
奥田Ｂ遺跡	員弁郡員弁町大字東一色字奥田	県営圃場整備事業	県教委	県農林水産部 県教育委員会
下小原古墳群	員弁郡大安町大字石榑東字下小原	町道石榑大井田線 道路改良工事	町教委	町
縄生廃寺遺跡	三重郡朝日町大字縄生字中谷	中部電力川越火力線 １８号鉄塔建設事業	町教委	事業者
下江平遺跡	三重郡菰野町大字田光字下江平	県営圃場整備事業	県教委	県農林水産部 県教育委員会
下江平遺跡	三重郡菰野町大字田光字下江平	県営圃場整備事業	町遺跡 調査会	県農林水産部 県教育委員会
橋門遺跡	鈴鹿市三宅町字橋門	県営圃場整備事業	県教委	県農林水産部 県教育委員会
大鼻遺跡	亀山市太岡寺町字大鼻	一般国道１号亀山 バイパス建設事業	県教委	建設者
山城遺跡	亀山市川合町字山城	一般国道１号亀山 バイパス建設事業	県教委	建設者
東野公園遺跡群	亀山市栄町柴戸	亀山市東野公園 建設事業	市教委	市
大屋垣内遺跡	安芸郡芸濃町大字萩野字大屋垣内	県営圃場整備事業	県教委	県農林水産部 県教育委員会
今徳遺跡	安芸郡芸濃町大字今徳	県営圃場整備事業	県教委	県農林水産部 県教育委員会
上原遺跡	安芸郡美里村南長野上原	県営圃場整備事業	県教委	県農林水産部 県教育委員会
神ノ宅遺跡	安芸郡美里村家所字神ノ宅	県営圃場整備事業	県教委	県農林水産部 県教育委員会

遺跡名	所在地	原因	調査主体	費用負担
算所遺跡	一志郡白山町大字算所	県営圃場整備事業	県教委	県農林水産部 県教育委員会
東野遺跡	一志郡嬉野町森本字東野	県営圃場整備事業	県教委	県農林水産部 県教育委員会
屋敷田遺跡	一志郡嬉野町大字森本	県営圃場整備事業	県教委	県農林水産部 県教育委員会
下之庄東方遺跡	一志郡嬉野町中川字高畑他	一級河川中村川改修事業	県教委	建設省
四反畑遺跡	一志郡嬉野町中川下之庄	県道嬉野飯高線県単道路改良工事事業	町遺跡調査会	県土木部
堀之内遺跡	一志郡嬉野町堀之内	近畿自動車道関・伊勢線（久居～勢和間）建設事業	県教委	日本道路公団
片野池古墳群	一志郡一志町片野字片野池	片野住宅団地・天花寺工業団地造成事業	一志町、嬉野町遺跡調査会	事業者
西野古墳群	一志郡嬉野町天花寺字西野	〃	〃	〃
岩ノ谷遺跡	一志郡一志町波瀬字岩ノ谷	ため池施設工事	町教委	町
片野遺跡	一志郡一志町片野	地方改善施設整備事業姫路地区道路改良工事（町道姫路139号線）	町教委	町
杉垣内遺跡	松阪市深長町字杉垣内	県営圃場整備事業	県教委	県農林水産部 県教育委員会
堂ノ後遺跡	松阪市深長町字堂ノ後	県営圃場整備事業	県教委	県農林水産部 県教育委員会
赤城遺跡	松阪市野村町字赤城	県営圃場整備事業	県教委	県農林水産部 県教育委員会
深長古墳	松阪市深長町刑部田	県営圃場整備事業	県教委	県農林水産部 県教育委員会
本堂遺跡	松阪市深長町字本堂	県営圃場整備事業	県教委	県農林水産部 県教育委員会
垣内田遺跡	松阪市岩内町字垣内田	近畿自動車道関・伊勢線（久居～勢和間）建設事業	県教委	日本道路公団
垣外遺跡	松阪市矢津町字椙垣外	〃	県教委	日本道路公団
薮ノ下遺跡	松阪市岩内町字薮ノ下	〃	県教委	日本道路公団
平林古墳群	松阪市伊勢寺町字平林	〃	県教委	日本道路公団
天神山古墳群	松阪市岩内町、伊勢寺町	〃	県教委	日本道路公団
横尾古墳群	松阪市岡山町字横尾	〃	県教委	日本道路公団
女半谷古墳群	松阪市小野町、嬉野町薬王寺	〃	県教委	日本道路公団
大河内5号墳	松阪市笹川町坂東	〃	県教委	日本道路公団
大河内城堀切	松阪市大河内町字小嵜谷	〃	県教委	日本道路公団
嵜谷遺跡	松阪市矢津町字嵜谷	〃	県教委	日本道路公団
曲遺跡	松阪市曲町上府殿・庄ノ坪・林添	県道合ケ野松阪線改良工事	市教委	県土木部
上相田遺跡	松阪市伊勢寺町上相田・中谷垣内	県道丹生寺一志線改良工事	市教委	県土木部

遺跡名	所在地	原因	調査主体	費用負担
五輪山古墳群	松阪市伊勢寺町向山	県道丹生寺一志線改良工事	市教委	県土木部
粥鍋遺跡	松阪市川井町粥鍋	松阪市都市計画道路外五曲・大平尾線建設事業	市教委	市
伊勢寺廃寺	松阪市伊勢寺町世古	地区集会所建設	市教委	市
牧瓦窯群7号窯	多気町大字鍬形	近畿自動車道関・伊勢線（久居～勢和間）建設事業	県教委	日本道路公団
牧中世墓	多気町大字秡形	〃	県教委	日本道路公団
寺垣内遺跡	多気郡明和町大字金剛坂字寺垣内	県営圃場整備事業	県教委	県農林水産部 県教育委員会
砂谷遺跡	度会郡玉城町坂本	県道田丸斎明線改良工事	町教委	県土木部
竹野鼻遺跡	大宮町大字永会字竹野鼻	県営畜産経営環境整備事業	県教委	県農林水産部
森添遺跡	度会郡度会町上久具森添	町道学校上久具線久具都比売橋建設	町教委	町
佐八藤波遺跡	伊勢市佐八町字藤波	佐八小学校新築事業に伴う事前試掘	市教委	市
寺山城跡	上地町字上通小字寺山	宅地造成に伴う事前試掘調査	市教委	事業者
近代古墳	上野市上神戸	県営圃場整備事業	県教委	県農林水産部
四国山遺跡	上野市大字山出字四国山	一般国道368号改良事業	県教委	県土木部
四ノ坪遺跡	上野市上反生字四ノ坪	県営圃場整備事業	県教委	県農林水産部
安田氏館跡	上野市界外字北浦	県営圃場整備事業	県教委	県農林水産部
塚本館跡	上野市界外	県営圃場整備事業	県教委	県農林水産部
法華堂西館跡	上野市佐那具字法華堂	三重西濃運輸㈱荷扱場増築および駐車場造成工事	市遺跡調査会	事業者
奥小波田遺跡他	上野市下友生奥小波田他	上野新都市開発構想区域内埋蔵文化財範囲確認調査	市遺跡調査会	県地域振興部 市
桶崎氏城跡東山古墳	阿山郡阿山町円徳院字東山	県道甲南上野線道路改良事業	県教委	県土木部
向山6号墳	阿山郡大山田村平田字向山	農林漁業用揮発油税財源身替農道整備事業	県教委	県農林水産部
菊永氏城跡	阿山郡阿山町大字中友田・上友田	〃	町遺跡調査会	県農林水産部
中戸遺跡	名張市赤目町大字相楽字中戸	県営圃場整備事業	県教委	県農林水産部 県教育委員会
下垣内遺跡	名張市赤目町星川	県営圃場整備事業	県教委	
夏見廃寺	名張市夏見字赤坂	重要遺跡範囲確認調査	市教委	市
下川原遺跡	名張市夏見字下川原	市道青蓮寺名張線改良工事	県教委	市
上山古墳群	名張市夏見字上山	近鉄不動産宅地開発事業	市遺跡調査会	事業者
下中島古墳群	阿山郡大山田村平田字下中島	農林漁業用揮発油税財源身替農道整備事業	県教委	県農林水産部
斎宮跡	明和町斎宮	重要遺構確認調査	市教委	県

2　緊急発掘調査の概要（※印は国庫・県費補助事業、△印は試掘）

（調査主体のカッコ内は調査担当者名）

観成寺遺跡（員弁郡藤原町大字上相場字観成寺）

事 業 名　県営圃場整備事業

調査主体　三重県教育委員会（久志本鉄也）

調査期間　昭和６１年6月２４・２５・３０日、８月２６～３０日

調査面積　約3,９００㎡

概　　要　遺跡は背後を神奈備型の美しい山容をもつ観成寺山（標高１６３ｍ）、残りの三方を崖で限られた方形台地（東西１７０ｍ、南北１２０ｍ、標高120ｍ前後、比高７～８ｍ）上に位置し、更に東・南面を日之谷川がめぐる。台地上で１１カ所の試掘を行なったが、遺物の出土を見たのは１カ所のみで、他は遺構・遺物ともに皆無であった。立地が良好である事、小字名が寺である事、寺跡の伝承を伴う事などから、その試掘坑を中心に本調査を行なった。その結果、台地西半部において堀跡を確認した。規模は５０ｍ四方で、南西コーナーが開口する。平均幅約４ｍ、深さ約1.２ｍである。東西堀は各々北側へ突出し、東堀で７６ｍに達する。西堀の北は前年度事業で既に削平されており、その延長を明らかにし得ない。他の遺構としては、郭内中央やや西よりに、北西－南東に長軸をもつ隅丸長方形の土坑が１基検出されたのみである。長軸に沿って深さ２～３㎝の浅い溝が掘られ、そのまま両端は土坑外へと突出する。北西端付近はピット状に深くなっており、約３３㎝である。遺物は皆無で、埋土には多量の炭が混じる。火葬墓と考える。堀は東・南は完掘、北・西はトレンチ調査にとどまったが、比較的多くの遺物（山茶椀・同墨書・土師器皿・施釉陶器・青白磁・下駄等木製品・梅核等植物遺体）が出土した。出土遺物は、１３世紀末から１４世紀初頭に集中するが、より古いものも混じる。

社護地塚遺跡（員弁郡大安町大字石榑東字楠ノ木）

事 業 名　県営圃場整備事業

調査主体　三重県教育委員会（久志本鉄也）

調査期間　昭和６１年１０月２２日

調査面積　約１０㎡

概　　要　田の畦の一部が膨らみ塚状をなす。長径５ｍ、短径３ｍ。低い方の田面からの比高６０㎝。分布調査時には遺物の散布はなかったが、かつて削平時に石棒が出土しており（「猪名部」８号、１９５４）、昭和３０年代までは塚の上に宝篋印塔の笠・塔身部があったとの事である。シャゴジ・シャグジは『石神問答』（柳田国男、１９０９）以来、主として民俗学の対象であった。県内の調査としては将軍塚（ショゴンさん、阿山町円徳院）、佐軍神塚（多度町天王平）についで３例目である。出土遺物としては、近世と思われる施釉陶器片を１片採集し得たのみで、その性格を明らかにするには至らなかった。

薬師前遺跡（員弁郡大安町大字門前字薬師前）

事 業 名　県営圃場整備事業

調査主体　三重県教育委員会（久志本鉄也）

調査期間　昭和６１年９月２７日

調査面積　約４０㎡

概　　要　南北１３０ｍ・東西８５ｍの遺跡範囲の内、水路部分（２５ｍ×1.6ｍ）のみのトレンチ調査である。遺跡のすぐ北西に光蓮寺（梅戸高実の墓所）があり、その背後の山に梅戸城跡がある。調査の結果、須恵器（飛鳥）、山茶椀（１３世紀中頃）、土師器、施釉陶器、青磁椀などいずれも小片が出土した。遺構は検出されなかった。

大貝戸遺跡（員弁郡大安町大字門前字大貝戸）

事 業 名　県営圃場整備事業

調査主体　三重県教育委員会（久志本鉄也）

調査期間　昭和６１年９月２４日～１０月６日）

調査面積　約２９０㎡

概　　要　薬師前遺跡の東南２００ｍ、養父川に面した平坦地に位置し、東西230ｍ・南北１００ｍ。ただし事業地周縁の水路部分のみの調査である。調査の結果、北西部において遺構・遺物の密度淡く、南東部において濃い傾向を示した。遺物は１３世紀前半～中頃の山茶椀が中心であるが、他に土鍋、甕、施釉陶器片などが出土した。１片だけ弥生と思われる土器片も出土している。遺構としては、カマドが崩れたと思われる集石箇所があり、土鍋もそこで出土した。他にピット、土坑、溝などがあるが建物跡は検出出来なかった。

岡山遺跡（員弁郡員弁町大字東一色字岡山）

事 業 名　県営圃場整備事業

調査主体　三重県教育委員会（久志本鉄也）

調査期間　昭和６１年１０月６～８日、２７～２９日、１１月８・１２日

調査面積　約1,４００㎡

概　　要　遺跡は岡古墳群のある茶臼山（標高９８ｍ）の西南麓にあり、南へ傾斜している。遺跡は東西１２５ｍ・南北１７５ｍの広がりをもち、南に傾斜している。

調査したのは事業地南縁の水路部と、遺跡中央やや北西寄りの削平を受ける部分である。調査の結果水路部分では掘立柱建物１棟、１３世紀中頃の山茶椀を多く含む土坑などが検出された。面調査部分では掘立柱建物５棟、建物に伴う柱列、土坑、溝などが検出された。１棟は３間×２間の総柱建物である。遺物は、面調査部分は後世の削平を受けたためか少なく、試掘時に灰釉椀底部が出土した他、溝から須恵器、土坑からは高台の剥離する山茶椀と、高台を意識する山皿が共伴する。水路部分の南半では、６世紀末頃の杯身・杯蓋も数点認められた。これは岡古墳の推定築造年代と同時期である。以上、１３世紀を中心とする集落跡であるが、遺物からは古墳時代・平安時代の生活も行なわれた事を示している。

大谷遺跡（員弁郡員弁町大字東一色字奥田）

事 業 名　県営圃場整備事業

調査主体　三重県教育委員会（久志本鉄也）

調査期間　昭和６１年１０月９日～１１月１４日、１１月１９日～１１月２９日

調査面積　約3,１２０㎡

概　　要　昨年度調査した大谷地区の北側に道路をはさんで隣接する地区である。

遺跡面積約８３,０００㎡（今回の事業にかかる部分約２９,０００㎡）。調査は工事対応が不可能な水路部分および、幹線道路部分についてのみ行なった。調査の結果掘立柱建物１０棟、竪穴住居５棟、柱列１条などを検出した。密度は全体に濃くなく、特に中央部では遺物はあるものの、遺構はほとんど皆無といってよかった。

北西部では３間×２間と思われる奈良時代の掘立柱建物が２棟南北方向に並び、中央南西部では、北廂付の３間×２間の中世の掘立柱建物、南東部では４棟が検出されているが、内１棟は妻柱がやや外側に立つものである。

大谷地区では竪穴住居が主であったが、奥田地区では少なく、いずれも大谷地区寄りで検出されている。出土遺物は奈良時代の須恵器・土師器が主であるが、他に灰釉陶器、山茶椀、青白磁、天目、布目瓦、フイゴ羽口、蛤刃石斧などが出土している。

奥田Ｂ遺跡（員弁郡員弁町大字東一色字奥田）

事 業 名　県営圃場整備事業

調査主体　三重県教育委員会（久志本鉄也）

調査期間　昭和６１年１１月１４日～１１月１８日、１２月１日

調査面積　約３８０㎡

概　　要　幅４０ｍ程の浅い谷をはさんで、大谷遺跡の北東に位置する遺跡である。

遺跡面積約２０,０００㎡。調査は水路部分のみで、幅４ｍ、長さ約１００ｍにわたって行なった。遺構は極めて乏しく、南端近くで谷に平行する柱列１条、

北端付近でしっかりした掘形をもつ掘立柱建物１棟が検出されたのみである。出土遺物は奈良時代の須恵器・土師器が主であるが、掘立柱建物付近で緑釉陶器片４点・灰釉陶器などが出土しており、この遺跡の特殊性を示している。

昨年の大谷遺跡の成果とあわせ、この地域が奈良時代・鎌倉時代を中心としつつも、弥生中期から近世初頭に至るまで、ほぼ継続的に営まれた遺跡である事が明らかとなった。

下小原古墳群（員弁郡大安町大字石榑東字下小原）

事 業 名　町道石榑大井田線道路改良工事

調査主体　大安町教育委員会（松本覚）

調査期間　昭和６１年４月１６日～２１日

調査面積　約５０㎡

概　　要　本古墳群は員弁川の支流宇賀川左岸に位置し、１８基が現存する。東西２支群に分けられ、東支群は１２基、西支群は６基からなる。宇賀川流域は員弁郡内で最も古墳が集中しており、他に上小原・南林・野々田・宇賀新田・大辻などの古墳群が知られる。今回は道路拡幅により、４基が部分的な削平を受ける事になったものである。調査はいずれも、拡幅にかかる部分だけのトレンチ調査である。仮番号東１号墳では主体部と周溝が確認され、主体部底から須恵器高杯が出土した。石室の有無は不明である。東２号墳も主体部と周溝が確認されたが、１号墳は周溝の方が深いのに対し、２号墳は主体部の方が深い。主体部は幅７０㎝の小石室が残り、長さは調査区外のため不詳である。奥壁の石は抜き取られていたが、東壁は二段が残る。床面には扁平な河原石が置かれ、その間隙部から須恵器提瓶が出土、北東部からは管玉が１点出土した。東３号墳の主体部は攪乱されており、径３０～４０㎝の河原石が多く見られた。床部近くから平瓶が出土した。周溝の深さは主体部とほぼ同じである。西１号墳は墳丘の裾がかかる程度であったため、主体部は検出されず、周溝と思われる落ち込みが両側で確認された。遺物は出土しなかった。本古墳群の築造年代は、出土遺物から６世紀末～７世紀初頭と考えられる。

縄生廃寺（三重郡朝日町大字縄生字中谷）

事 業 名　中部電力川越火力線建設事業

調査主体　朝日町教育委員会（早川裕己）

調査期間　昭和６１年９月１８日～昭和６２年３月３１日

調査面積　約８００㎡

概　　要　縄生廃寺は、朝日町の北部と桑名市南部を東流する員弁川の右岸に広がる谷密度の高い低丘陵地の最東部にある。標高は３６ｍ前後で、今回検出した塔基壇は幅１２ｍのせまい尾根上にあり、塔以外の建物は確認に至っていない。

塔跡は発掘区の中央部で、ほぼ真北軸にのるようにして検出された。一辺が約１０.２ｍで、四周は瓦積による基壇化粧がなされている。

基壇は地山を削り出して造っている。その中央に地下式心礎を据えつけるために直径約５ｍほどの不整形な掘形を掘り、版築で固めている。心礎埋土には根巻状の粘土、中位には根巻状の瓦片が部分的に検出された。心柱の直径は60～７０㎝である。

心礎は花崗岩製で扁平、柱座はなく中央に舎利孔が穿ってあり、鉛ガラス製の内容器を石製外容器におさめて埋納され、唐三彩の椀がふせられていた。

出土した軒丸瓦３種から創建は７世紀末と考えられる。また、飛雲文軒平瓦は基壇化粧に使用されており、その他の箇所からは出土していない。

塔基壇の北西部には瓦が倒壊状況で遺存しており（幅６ｍ、長さ３ｍ）、遺存度の良好な箇所（２.４ｍ×１.５ｍ）についてはシリコン樹脂塗布による型取りを実施した。

下江平遺跡（三重郡菰野町大字田光）

事 業 名　県営圃場整備事業

調査主体　三重県教育委員会（駒田利治・稲垣良二）

調査期間　昭和６１年７月７日～昭和６２年１月８日

調査面積　６,３００㎡

概　　要　下江平遺跡は、鈴鹿山脈の麓で、朝明川北岸に広がる扇状地に位置する複合遺跡である。幹線排水路部分と、工事立会による調査を行なった。

幹線排水路部分の調査では、奈良時代の掘立柱建物２棟、竪穴住居５棟、鎌倉時代の竪穴状遺構１基、時期不明の掘立柱建物１棟の他、溝・土坑等を検出した。また、工事立会による調査では、時期不明の掘立柱建物２棟の他に、柱列・溝・土坑などを検出した。遺構の多くは、調査区東部の扇状地端部で検出している。

出土遺物としては、全体的に少ないが、奈良時代の須恵器杯・皿・長頸壷、土師器皿・甕・長胴甕、平安時代の灰釉椀、および、鎌倉～室町時代の土師器杯、山茶椀などがあげられる。

下江平遺跡（三重郡菰野町大字田光字下江平）

事 業 名　県営圃場整備事業

調査主体　菰野町遺跡調査会　（神田　薫、新田　剛）

調査期間　昭和６２年２月４日～３月１６日

調査面積　２,４００㎡

概　　要　本遺跡は朝明川北岸に広がる扇状地上に位置する。今回調査の対象となったのは、県営圃場整備事業によって削平される部分のうち、江平集落から東へ約１４０ｍの地点（Ｇ地点）と２００ｍの地点（Ｈ地点）の合わせて2,400㎡である。

主な出土遺物は土師器の長胴甕・杯・土錘、須恵器の杯、灰釉陶器、山茶椀など多岐におよぶが、全体的な出土量は乏しい。遺構としては、Ｈ地点で竪穴住居１棟、掘立柱建物１棟、集石土坑２基の他、溝、大小の土坑が、Ｇ地点で溝、不整形の土坑が検出された。

竪穴住居は西辺にカマド、中央にも焼土を有し、柱穴はない。住居跡内からは土師器片が出土している。掘立柱建物は３間×２間で、東側に廂と考えられる柱穴が検出されている。ともに時期は明確にしえない。

遺物および遺溝の分布はＨ地点の東半分に濃密であること、とくに竪穴住居

跡・掘立柱建物がH地点の東端に位置することから、発掘区の東にさらに遺物・遺構の分布の中心が広がっている可能性も考えられる。

橋門（はしかど）遺跡（鈴鹿市三宅町字橋門）

事 業 名　県営圃場整備事業

調査主体　三重県教育委員会（倉田守）

調査期間　昭和６１年５月２１日～９月１２日

調査面積　3,５２０㎡

概　　要　橋門遺跡は中ノ川下流域左岸にあり、標高１６～２１ｍの東西にのびる河岸段丘上に位置する。調査は３箇所（Ａ・Ｂ・Ｃ地区）に分けて実施した。

Ａ地区（調査面積９１０㎡）の現況は荒地であり、ここから井戸２基と堀状の溝の他段状の遺構が検出された。出土遺物から判断して古墳時代から室町時代に至る複合遺跡であることが確認された。

Ｂ地区（調査面積1,８６０㎡）の現況は畑地と荒地であり、ここからは削平を受けた古墳２基と井戸１基、堀状の溝の他多数の建物跡が検出された。とくに井戸は下半部分の保存状態がよく、木組方形横桟型井側をもち幅３０㎝程の縦板を各辺４枚ずつ使用する堅固なものである。出土遺物から１２世紀後半～１３世紀前半の鎌倉時代初頭を中心とする時期の遺跡と考えられる。

Ｃ地区（調査面積７５０㎡）の現況は荒地であり、２棟の建物跡と段状の遺構が検出された。また調査区の西３分の１程は全体的に焼土におおわれている。出土遺物から鎌倉時代の遺跡と思われる。以上、３地区に分けて発掘調査を実施した橋門遺跡は、中心となる時期は鎌倉時代から室町時代のものと考えられ、この地域で従来未確認であった鎌倉時代の遺跡として重要な意義をもっている。

大鼻遺跡（亀山市太岡寺町字大鼻）

事 業 名　一般国道１号　亀山バイパス建設事業

調査主体　三重県教育委員会（山田猛・梅澤裕）

調査期間　昭和６１年５月１９日～８月９日（第二次調査）

昭和６１年８月１８日～１２月２７日（第三次調査）

調査面積　7,５００㎡

概　　要　昭和６０年度の第一次調査区に西接する２－Ａ区では、縄文時代早期の遺構、遺物が確認された。第一次調査分と合わせると、竪穴住居７棟と焼土坑１６基が確認された。

住居は、直径3.５ｍ程の不整円形を呈し、現存深１５～３０㎝でやや離れた１棟を除き重複している。遺物は、回転縄文・押圧縄文や市松文を中心に、ネガ楕円文・格子文等の押型文をもつ土器と土偶１点が出土した他、ポイント・石鏃・磨製石斧・スクレーパー・ピエスーエスキーユ等のサヌカイトやチャート製の石器およびフレイクが出土した。

２－Ｂ区では、弥生時代中期の方形周溝墓とみられる溝と、平安～鎌倉時代の掘立柱建物等が検出された。

２－Ｃ区では、遺跡の中央よりであり、古墳時代と奈良時代頃の竪穴住居が３棟見つかっている。

３区では、竪穴住居１３棟、掘立柱建物６棟、墓坑２基が検出された。この調査区では、竪穴住居の埋土をふるいがけしたところ、ほぼすべての住居から滑石製の小玉合計１２０個ほどを確認した。

山城（やまじょ）遺跡（亀山市川合町字山城）

事 業 名　一般国道１号　亀山バイパス建設事業

調査主体　三重県教育委員会（山田猛・梅澤裕）

調査期間　昭和６１年１１月４日～１２月１８日（第三次調査）

調査面積　４００㎡

概　　要　昭和５９・６０年度に引き続いて隣接地を調査した。その結果、古墳時代と鎌倉時代の遺溝や遺物を確認した。

古墳時代は、７棟の竪穴住居と溝等が検出された。この内、竪穴１５は１辺が７ｍ余と比較的大きく、溝１５と共に前期の土器を多数出土した。後期の竪穴１４は、５世紀末から６世紀初頭の土器をカマドから出土したほか、碧玉製

管玉や鉄刀片も埋土中から出土した。

鎌倉時代を中心とした中世の遺物は、溝１や溝１０等から出土した。この内、梅花状の墨書を持つ山茶椀が、昨年度までに溝１から１０点程出土していたが、今回は溝１０から１点出土した。

東野公園遺跡群 △（亀山市栄町柴戸）

事 業 名　亀山市東野公園建設事業

調査主体　亀山市教育委員会（安川富春・生駒勝）

調査期間　昭和６１年１２月１日～４日・２４日

調査面積　１６,０００㎡

概　　要　椋川南岸の河岸段丘上に運動公園が建設される事となり、当該地が柴戸遺跡・柴戸古墳・柴戸２号墳に相当するため、公園予定地１６,０００㎡内に２ｍ×４ｍの試掘坑を６５カ所設定し試掘を行なった。その結果ほぼ全域から弥生中期から中世に至るまでの遺物が出土した。また柴戸２号墳の攪乱坑から刀子と須恵器蓋付広口壷２個体が出土した。また焼土坑やピット等の遺構も検出されたため、全面的な調査の必要性が認められた。これに基づき、６２年度に第一次調査として４,０００㎡を発掘調査を行なう予定である。

大屋垣内遺跡（安芸郡芸濃町大字萩野字大屋垣内）

事 業 名　県営圃場整備事業

調査主体　三重県教育委員会（上村安生）

調査期間　昭和６２年３月２日～３月１６日

調査面積　２５０㎡

概　　要　大屋垣内遺跡は、安濃川左岸の標高４５ｍ前後の河岸段丘低位面に位置し、萩野集落の西のはずれにあたるところである。

調査は、排水路部分２５０㎡について行なった。その結果、平安時代末頃の掘立柱建物４棟が検出された。排水路部分の調査のため、建物の規模の全容をうかがい知り得るものはないが、１棟は柱痕跡が残存しており、桁行５間×梁

行２間以上（南北棟）である。さらに、１棟は桁行５間×梁行１間以上である。

出土遺物は、ロクロ製土師器（底部に糸切り痕をとどめる椀・小皿・台付小皿がある）、灰釉陶器（椀・段皿・広口瓶）・非ロクロ製土師器・須恵器・山茶椀・緑釉陶器（椀・壷）がある。平安時代末頃の遺物が多い。

今徳遺跡（こんどく）（安芸郡安濃町大字

事 業 名　県営圃場整備事業

調査主体　三重県教育委員会（駒田利治）

調査期間　昭和６１年９月２５日～１０月６日

調査面積　３９０㎡

概　　要　今徳遺跡は、穴倉川右岸の標高２３ｍ前後の台地端部に位置する奈良時代から室町時代の集落跡と考えられる遺跡である。遺跡は、台地端部に奈良時代、台地基底部に鎌倉～室町時代の遺構・遺物が多く出土する傾向をもつ。

調査は、台地基底部近くのＡ地区（１６０㎡）と台地基底部近くのＢ地区（２３０㎡）の２箇所で実施した。Ａ地区では、奈良時代の素掘り井戸１基、溝２条、土坑の他多数のピットを検出したが建物としてはまとまらない。井戸および土坑から奈良時代の土師器・須恵器を出土した他、包含層等から室町時代の山茶椀が出土した。

Ｂ地区では、溝２条と土坑・ピットを検出したが、建物としてはまとまらない。出土遺物には、奈良時代の須恵器と室町時代の土師器・山茶椀がある。

上原遺跡（安芸郡美里村南長野上原）

事 業 名　県営圃場整備事業

調査主体　三重県教育委員会（上村安生・高宮小学校教諭本堂弘之）

調査期間　昭和６１年７月２８日～８月９日

調査面積　1,１００㎡

概　　要　上原遺跡は、雲出川の支流の長野川上流右岸にあたる標高１５０ｍ前後の台地上に位置する。排水路部分Ａ地区１６０㎡、面調査Ｂ地区９４０㎡の

調査を行ったが、遺物の量は少なく、土師器・山茶椀等が出土している。遺構は、B地区において柱穴が検出されている。遺跡の時期としては、鎌倉時代末から室町時代と考えられる。

神ノ宅遺跡（安芸郡美里村家所字神ノ宅）

事 業 名　県営圃場整備事業

調査主体　三重県教育委員会（駒田利治）

調査期間　昭和６１年１０月２７日～１１月３日

調査面積　６３０㎡

概　　要　神ノ宅遺跡は、長谷山西方の丘陵に囲まれた盆地状の地に位置する。遺跡は、この南側の標高８０ｍほどの丘陵上に営まれた室町時代の集落跡である。

調査は、A・Bの二つの地区に分けて実施した。A地区では、室町時代の掘立柱建物１棟・溝１条、土坑１基および室町時代以降と考えられる火葬墓３基が検出された。掘立柱建物は、桁行３間以上×梁行２間の身舎の南北二面に廂がつく総柱建物であり、柱穴の一つには根石が認められた。出土遺物は、柱穴および溝から山茶椀や信楽甕が出土している。

B地区では、多数のピットを確認したが、いずれも径２０㎝以下のもので建物跡としてまとまりをもたない。ピット内からは、土師器の細片が出土したが時期は決めがたい。

算所遺跡（一志郡白山町大字算所）

事 業 名　県営圃場整備事業

調査主体　三重県教育委員会（上村安生・白山高校教諭服部久士・同竹田憲治）

調査期間　昭和６１年７月２６日～９月２５日

調査面積　１０,０００㎡

概　　要　算所遺跡は、雲出川左岸の標高５２ｍ前後の河岸段丘上に位置する。河床との比高は、約１４ｍである。

遺構は、土坑が１０基検出されている。そのうちＳＫ１～ＳＫ５は埋土に多くの炭を含み、一部壁面が焼けているものがある。ＳＫ７～ＳＫ１０は竪穴状の土坑である。

遺物は、縄文時代後期の土器、古墳時代から奈良時代の須恵器・土師器、室町時代の土師器、土錘などが出土している。出土遺物はいずれも細片が多く量的にも多くない。

遺物は、７世紀中頃から８世紀代にかけてのものが一番多く、ＳＫ７～SK１０もその時代のものと考えられる。縄文時代・古墳時代・室町時代の遺構については検出されておらず、当遺跡の中心は奈良時代と考えられる。

東野遺跡（一志郡嬉野町森本字東野）

事 業 名　県営圃場整備事業

調査主体　三重県教育委員会（駒田利治・山田芳昭）

調査期間　昭和６１年

調査面積　２,２００㎡

概　　要　東野遺跡は、雲出川の一支流中村川右岸の標高３７ｍ前後の河岸段丘上に位置する。

調査の結果、この遺跡は、平安時代末から室町時代にかけての複合遺跡であり、平安時代末から鎌倉時代にかけての土坑３基、室町時代の掘立柱建物１棟、石組土坑４基、井戸１基、溝２条、土坑１基を検出した。石組土坑は、１辺2.5ｍ前後の方形を成し、地山を0.３ｍほど掘りこんでいる。３辺には、人頭大の石を「コ」字状に３段以上積み上げている。土坑内および周辺からは、フイゴ羽口、鉄鋌等が出土しており、野鍛冶的な作業が行なわれた遺構の可能性がある。

出土遺物には、土師器皿・鍋、山茶椀、常滑甕、石臼がある。

屋敷田遺跡（一志郡嬉野町大字森本）

事 業 名　県営圃場整備事業

調査主体　三重県教育委員会（上村安生）

調査期間　昭和６１年１２月５日～１２月２６日

調査面積　４００㎡

概　　要　屋敷田遺跡は、中村川右岸の４５ｍ程の低位丘陵の先端に位置する。遺跡の背後には森本氏城跡が所在し、眼前には午前坊遺跡がひろがる。約400㎡程の調査を実施したが、検出した遺構、出土した遺物の中心は室町時代である。

遺構としては、石組みをもつ竪穴状の土坑が２基検出された。さらに、数多くの柱穴が検出されたが、掘立柱建物としてはまとまらない。

遺物としては、土師器の皿・鍋が中心である。他には、山茶椀・青磁等も少数であるが出土した。

下之庄東方遺跡（一志郡嬉野町中川字高畑他）

事 業 名　一級河川中村川改修事業

調査主体　三重県教育委員会（吉水康夫・森田浩史）

調査期間　昭和６１年６月１５日～昭和６２年１月２１日

調査面積　5,７００㎡

概　　要　下之庄東方遺跡は伊勢平野を流れる雲出川の支流、中村川右岸の河岸段丘上に位置する。一級河川中村川の改修にかかる範囲、約１６,０００㎡について昭和６１年度と６２年度の２カ年で現地の発掘調査を実施することとなった。調査区は字名により北から高畑、小野、四反畑、夜ノ堀の各地区に分け、昭和６１年度は高畑地区の5,７００㎡について本調査を実施した。調査の結果、弥生時代中期・後期の方形周溝墓、古墳時代の溝、竪穴住居、奈良～平安時代の掘立柱建物、溝、鎌倉時代の溝、墓、土坑など多数の遺構が高い密度で検出され、遺物も各時代にわたって多量に出土し、小量ながら縄文土器片も見られる。弥生時代の方形周溝墓は１４基検出され、その中の１基は中期前半のもの

で県下でも最古の例である。古墳時代の溝からは、ミニチュア土器を含む古式土師器が多量に出土した。竪穴住居は３７棟検出されたが、何棟も重複しているため、そうとうの時期幅を持つものと思われる。奈良～平安時代の掘立柱建物は１６棟検出され、中にはかなり立派な建物と想定されるものや、３間×３間で総柱の倉庫と思われるものなどもあり、バラエティに富む。鎌倉時代は遺構、遺物ともに少なく、この時代には居住域としての機能をほぼ失なっていたと考えられる。以上の成果により、弥生～鎌倉時代の複合遺跡であることを確認した。これら各時代の遺構、遺物は今後、一志地方の古代を解明する上で貴重な資料となろう。

四反畑遺跡（一志郡嬉野町中川・下之庄地内）

事 業 名　県道嬉野飯高線道路改良事業

調査主体　嬉野町遺跡調査会（高見宜雄・高森英純）

調査期間　昭和６１年５月１２日～６２年３月５日

調査面積　６,０００㎡

概　　要　四反畑遺跡は、中村川右岸の標高１０ｍ程の低位段丘上に立地している。周辺には、下之庄東方遺跡をはじめ、筒野、西山、錆山、向山の前方後方墳、天花寺廃寺、一志廃寺、嬉野廃寺、上野廃寺等数多くの遺跡が分布している。現場での調査は遺物の散布状況と工事の計画予定の都合により、全体をＡ～Ｆの６区に分けて実施した。その結果、Ａ区は縄文時代、他区は、弥生～中世の複合集落遺跡であることが確認された。Ａ区で検出した遺構は、上層から近世の石敷き遺構、井戸跡２基である。また、下層の黒ボク土の上面からは、縄文時代の焼土が数カ所検出された。出土遺物としては、近世陶磁器、擂鉢、羽釜や、井戸出土の漆塗り木製椀があげられる。また、下層からは、縄文時代中期（里木Ⅱ式）の土器がかなりの量出土している。他区はＡ区に比べて時期的に下り、奈良時代から平安時代の遺構を中心とし、弥生時代の方形周溝墓や中世の土坑墓等も検出されている。主な遺構としては、方形周溝墓、竪穴住居、掘立柱建物、溝、井戸、土坑、土坑墓などである。主な出土遺物としては、Ｃ

区の井戸跡（奈良時代後半～平安時代初頭）の斎串、D区の井戸跡（平安時代中期）の「弔」と墨書された土師器杯、E区の土坑（奈良時代後半）の施釉瓦（二彩瓦か）、土坑墓（平安時代中期）の蔵骨器、F区の溝（古墳時代以降）の円筒埴輪片、鬼、軒丸瓦など、幅広い年代の土器が出土している。線的な調査ではあったが、A区を除くと、当遺跡は、隣接して中村川改修工事に伴い発掘調査が実施中の下之庄東方遺跡と遺構、遺物とも類似しているので同一遺跡ではないかと考えられる。

堀之内遺跡（一志郡嬉野町堀之内）

事 業 名　近畿自動車道関・伊勢線（久居～勢和間）建設事業

調査主体　三重県教育委員会（新田　洋）

調査期間　昭和６２年２月２３日～３月１３日

調査面積　７９０㎡

概　　要　当遺跡は中村川左岸に形成された河岸段丘上に立地し、現況は一面の東南に広がる水田地帯である。当地域の水田は昭和５２年度県営圃場整備事業対象地域にあたり、この折には当遺跡の東方約２００ｍに所在する下ノ庄遺跡が部分的に発掘調査されている。この調査では、奈良時代の竪穴住居、平安時代の掘立柱建物、溝、土坑等が検出されており、遺物としても多量の土師器、須恵器と共に緑釉、灰釉陶器等も出土している。

今回の調査は昭和６２年度調査に先がけた第一次（試掘）調査、および嬉野町主体事業である再圃場整備事業（堀之内工区）に伴う近畿自動車道用地内での両側道建設工事に先行する調査を兼ねて実施した。

調査の結果、両側道部については、昭和５２年度当時の圃場整備によって随所に削平、破壊部分が認められたが、南半を中心に約４００㎡に遺構、遺物の残存が良好な箇所が認められた。遺構としては奈良時代の竪穴住居３棟、平安時代前葉の溝、土坑の他、平安時代末から鎌倉時代初頭に比定しうる方形石積み井戸１基がある。出土遺物は当時代の土師器を主とし、須恵器、灰釉陶器、山茶椀、山皿等が多量に出土した。今回は幅５ｍという線的な調査であり、集

落跡としての広がりと構造は、なお不明確であるが、次年度の近畿道建設地内にかかる面調査によってさらにその実態が明らかになることが予想される。

片野池古墳群（一志郡一志町片野字片野池）

事 業 名　片野住宅団地・天花寺工業団地造成事業

調査主体　一志町・嬉野町遺跡調査会（伊勢野久好）

調査期間　昭和６１年９月２４日～１２月２５日

調査面積　２,５００㎡

概　　要　片野池のすぐ西側の丘陵頂部に位置する古墳群の内、工事で削平予定の２号墳について、調査を実施した。この古墳は直径３２ｍ、高さ４.２ｍの円墳で、段築は無く、外表施設として葺石が施される。後世の土取りが原因で西側の１／３が崩落してはいるものの、その他の残りは非常に良く、葺石も南側では基石が残り、また区画単位の石列も一部で認められる。古墳の南側は、丘尾切断による幅２ｍの溝がめぐる。

主体部の掘形は、墳頂中央部にあり南北に主軸をもつ長辺７.２ｍ、短辺２.６ｍ～３.１ｍの長方形を呈している。主体部は、この確認面から下へ１.３ｍの深さで割竹形木棺の直葬であることが判明した。棺跡は、幅０.９ｍ、長さ５.８ｍの中央がわずかにくぼんだ断面「Ｕ」字形を呈している。しかし、この様に良好な遺構にもかかわらず、棺内は徹底的に盗掘され、葺石のものと思われる川原石、あるいは円筒埴輪片が棺底近くから少量出土している。盗掘者は、掘形の側壁の一部を壊しただけで、あとは棺痕跡を傷つけずに中の土だけさらえていた。唯一の資料として滑石製の棗玉１点が副葬品として残されていた。

また２号墳の北西には、舌状に延びる低い尾根があり、この先端近くに４号墳が位置している。主体部は、木棺直葬の土坑３基から成り、このうちの１基から、鉄鏃・刀子が少量出土した。２号墳との位置関係や副葬品などから、４号墳は陪塚的な意味をもつのであろう。

西野古墳群（一志郡嬉野町天花寺字西野）

事 業 名　片野住宅団地・天花寺工業団地造成事業

調査主体　一志町・嬉野町遺跡調査会（伊勢野久好）

調査期間　昭和６１年４月２日～７月２０日、昭和６２年１月５日～３月３１日

調査面積　１２,７００㎡

概　　要　片野池の西方に広がる丘陵地先端に展開する古墳群である。古墳はすべてその大半が流失しており、現状では古墳であることさえ判りにくくなっている。前年度の試掘調査をもとに３、４、５、２１号墳の調査を実施した。

５号墳は、横穴式石室を内部主体とする古墳であるが、上面の流失が激しく、墳形や規模等については明らかでない。わずかに残った部分と石室規模から推定して径２０ｍ程の円墳となろうか。

石室は南西に開口する全長８.７ｍの左片袖式で、玄室長５.２ｍ、幅２.１ｍ、羨道部長さ３.５ｍ、幅１.１ｍの規模をもつ。石室の石材は、いわゆる「井関石」と呼ばれる砂岩であり、すでに多くの石材はぬき取られ、基底部の半分を残すのみとなっている。

この様な状況にもかかわらず副葬品は奥壁付近を中心として、天冠（金銅製）、馬具類（鉄地金銅張り…鞍金具、辻金具、雲珠、轡等）、鉄製品（鉄鏃、刀等）、須恵器（台付壷、高杯、杯、広口壷、提瓶、甕等）、土師器（高杯、杯等）、ガラス小玉等がある。時期的には、須恵器の型式から、６世紀中頃と７世紀前半に分けられ、前者を古墳造営時の埋葬に伴うもの、後者を追葬に伴うものと考えたい。

３号墳は、直径５０ｍ程の大型円墳の残がいと推定される。北西と南東に幅３.５ｍ程の周溝の一部が残り、南側ではこの周溝の延長線に沿って地形が下っていく。この旧地形の落ち込みの上面から、碧玉製石釧が出土した。他にも多量の古式土師器（二重口縁壷等）が、出土している。

４号墳は、５号墳の築かれた場所に鍵形に曲がる溝の一部を残しており、上面の土砂の流失と５号墳築造の際に壊されたため、規模は不明である。周溝は、最大幅１.２ｍ、深さ４０㎝で、この底部近くから弥生後期の欠山式新段階の壷

等が出土している。4号墳は古墳というよりも、むしろ方形台状墓となろうか。

21号墳は、北半部裾には石垣が巡り、また頂部には幅6.5m、深さ1.8mの堀り切りが検出され、この底近くから山茶椀、土師器鍋等が出土している。平安末～鎌倉初頭に築かれた城郭の一部になるかもしれない。

岩ノ谷遺跡△（一志郡一志町波瀬字岩ノ谷）

事 業 名　ため池施設工事

調査主体　一志町教育委員会（伊勢野久好）

調査期間　昭和62年2月25日

概　　要　一志町波瀬の遠河集落の北側に位置する遺跡で、裏川左岸のゆるやかに東へ傾斜する畑地に所在する。この畑地には、サヌカイトや中世土師器や山茶椀等が散布している。

調査は、遺跡のほぼ中央部に、幅1.8m、長さ20mの細長いA試掘溝と、1辺2.8mのB試掘溝の2カ所を設定した。その結果、B試掘溝からは前年度の土地改良事業に伴う調査で検出されたSD8・9の続きかと思われる溝の一部が確認された。また中世の遺物（土師器鍋、皿等）が、A・B試掘溝とも少量ながら出土した。

片野遺跡△（一志郡一志町片野）

事 業 名　地方改善施設整備事業姫路地区道路改良工事（町道姫路139号線）

調査主体　一志町教育委員会（伊勢野久好）

調査時期　昭和61年9月2日

調査面積　24㎡

概　　要　片野遺跡は、雲出・波瀬川の南側に位置する中位段丘上にあり、約30haに及ぶ広大な遺跡で、縄文時代から近世に至る複合遺跡である。

調査地は、遺跡の南西端にあたり、現在の道路を幅2m・長さ98mにわたって拡張するもので、この計画地内に2m×4mの試掘坑3カ所を設定して行なった。

調査面積は２４㎡と非常に狭く、遺跡の最南端ということもあり、遺構は検出されず、少量の遺物（奈良時代の土師器）が１カ所から出土したにすぎない。

杉垣内遺跡（松阪市深長町字杉垣内）

事 業 名　県営圃場整備事業

調査主体　三重県教育委員会（河瀬信幸）

調査期間　昭和６１年７月１日～１１月４日

調査面積　4,３３０㎡

概　　要　松阪市西部の堀坂山東山麓一帯の堀坂川・岩内川などが形成した複合扇状地の扇端部、標高約２０ｍの堀坂川左岸に位置し、現況は水田である。調査は、東西の幹線道路部分と排水路部分を含む約3,１００㎡をＡ区、南北の排水路部分約２５０㎡をＢ区、東西の排水路部分約７５０㎡をＣ区として調査を行った。さらに、『古代の道』確認のためのトレンチ部分約２３０㎡についても併せて行った。その結果、古墳時代～平安時代を中心とする遺構が検出され、遺物が出土した。

Ａ区の主な遺構は、古墳時代後期の竪穴住居１１棟、奈良時代後期の井戸１基、平安時代前期の竪穴住居２棟、掘立柱建物１棟、井戸２基、土坑４基があり、さらに、西から東へ流れる幅５～７ｍ、深さが遺構面から１～1.５ｍの旧河道を検出した。遺物は、旧河道から弥生～平安時代までのものが多種多量に出土した。この旧河道からは木製品も多量に出土し、建築部材をはじめ、斎串・刀形・馬形などの祭祀具がある。特に斎串は多く約１３０点を数える。祭祀に関するものとしては、土馬やミニチュア土器などの土製模造品も出土している。平安時代前期の井戸２基からも斎串などの祭祀具が出土しているが、その内１基の木組の中から木製人形が２点、木組の底部に置かれた曲物内から２点の横櫛が出土したことは注目される。

Ｂ区は掘立柱建物が１棟あるが、遺物をほとんど伴わないため時期は不明であり、遺物も中世のものを中心として少量である。

Ｃ区の主な遺構は、弥生時代中期の土坑が１基、古墳時代の方形周溝遺構１

基、奈良時代後期の竪穴住居３棟、平安時代前期の竪穴住居１棟、および掘立柱建物４棟、そして、旧河道を含む、年代的に幅がある溝が５条である。遺物はＡ区と同様に古墳時代～平安時代を中心とするものが多いが、奈良・平安時代の遺物は遺構に伴なうものが多い。

都より伊勢神宮および斎宮へ通ずる『古代の道』と足利健亮氏が想定した部分にトレンチ調査を行ったが、明瞭な痕跡を確認する事は主来なかった。しかし、それとおぼしきものも見受けられ今後の検討を要する。

堂ノ後遺跡（松阪市深長町字堂ノ後）

事 業 名　県営圃場整備事業

調査主体　三重県教育委員会（増田安生）

調査期間　昭和６１年１０月２０日～１２月２０日

調査面積　4,０００㎡

概　　要　堂ノ後遺跡は、縄文から平安時代の複合遺跡であり、標高２２～２４ｍの西から東へ緩く傾斜する洪積台地上に立地し、現状は水田となっている。旧地形の谷状部により東西に遺構の集中箇所が分かれる。東側では、縄文時代後期の土坑、古墳時代前期の竪穴住居２棟、後期の竪穴住居８棟、奈良時代以降の竪穴住居３棟の他、溝、柱穴等を確認した。東側で特筆されるのは、縄文時代中期末から後期前半の土器が１００点近く出土したこと、一辺5.２ｍの隅丸方形竪穴住居において、小型丸底壷、高杯、「Ｓ」字状口縁甕などが一括出土したことである。

西側では、円形竪穴住居１棟、古墳時代前期竪穴住居２棟、同後期の竪穴住居５棟、奈良時代以降の竪穴住居３棟、掘立柱建物２棟（２間×２間総柱建物）と４間×２間＋北面廂建物）等が検出された。主な遺物としては、縄文時代後期土器、弥生時代の口縁部に突起を持つ壷、古墳時代後期須恵器杯、土師器甕奈良・平安時代須恵器杯・甕、土師器杯、皿、甕、鎌倉時代山茶椀、土師器皿等がある。他に、石包丁３点、丹塗の土馬１点が出土した。

赤城遺跡（松阪市野村町字赤城）

事 業 名　県営圃場整備事業

調査主体　三重県教育委員会（増田安生）

調査期間　昭和６１年１１月１７日～１１月１８日

調査面積　５００㎡

概　　要　赤城遺跡は、野村町の西に位置し、岩内川右岸の現況水田である。水田３筆中、圃場整備の削平深度が大きい水田５００㎡につき発掘調査した。遺構としては、５間×２間の掘立柱建物が確認された。他に数棟の掘立柱建物があるが、発掘区外に延びるため規模は、不明である。時期は、平安時代前半と考えられる。他に幅約８０㎝の北東流する溝がある。遺物には、平安時代の土師器皿・甕・灰釉陶器椀・緑釉陶器・平安末～鎌倉時代山茶椀がある。

深長（ふこさ）古墳（松阪市深長町刑部田）

事 業 名　県営圃場整備事業

調査主体　三重県教育委員会（駒田利治・増田安生）

調査期間　昭和６１年１１月２１日～１２月２０日

調査面積　1,５００㎡

概　　要　深長古墳は、深長町南端の水田に残る小丘陵の突端部に位置し、現況は竹林と植木畑である。標高約２０ｍの扇状地裾部に立地し、残存高約５ｍである。当初排水路部分の発掘時に二重口縁壷が東側・南側で発見された。このため範囲確認調査を実施した。その結果直径約４５ｍの円墳であることが確認された。墳丘裾部には約５０個（破片による推定を含む）の底部穿孔の２重口縁壷が、めぐっていたと考えられる。北東側は、削平が激しく周溝の痕跡をかすかに留めていた。西側から西南部にかけての周溝および壷の残存状況は良好であった。周溝は丘陵先端部を掘り下げており、平安前半までの削平もあって明瞭な立ち上がりは無かった。この部分では、若干の現位置の移動はあるが、壷が約２０個体まとまって発見された。南西部は、墓道の可能性もある。周囲の状況から弥生時代中期の遺物包含層の上に盛土して作られていることが判明し、

周溝の縁辺で弥生時代竪穴住居２棟、土坑３基が確認された。

二重口縁壷は、口径３０㎝、器高３４㎝で口頸部は２段に大きく外反する。体部は球形をなし、最大径は中央にあり、口径とほぼ同じである。底部は、焼成前に穿孔している。口縁部は、ヨコナデし、体部上半部内面は指頭痕を残し、下半部は内外面ともヘラケズリである。朱彩が施されていたと推定される。

なお、半壊状態のマウンド部は、現状保存されることになった。

本堂遺跡（松阪市深長町字本堂）

事 業 名　県営圃場整備事業

調査主体　三重県教育委員会（駒田利治・小林直人）

調査期間　昭和６２年１月６日～１月１６日

調査面積　1,０６０㎡

概　　要　当遺跡は堀坂山の東側に形成された扇状地に位置し、現況は水田である。発掘区は２カ所設定し、道路部分３９２㎡と排水路部分６７０㎡を調査した。

道路部分の主な遺構としては、古墳時代の竪穴住居、平安時代の土坑・溝を検出した。特に平安時代土坑１基は、カマドを備えた厨房施設と推定される直径２.５ｍ程の円形の土坑であった。遺物は各遺構に伴うが破片が多く図化可能なものは少ない。

排水路部分では、円形状の土坑１基のみ検出され、古墳時代の甕・高杯が、人為的に廃棄された状態で出土した。

層序は表土、茶褐色土（包含層）、黄褐色（地山）であり、道路部分では一部分礫層が認められ平坦面を乱流した小河川の流路跡と考えられ、遺跡の周辺地域と思われる。

垣内田遺跡（松阪市岩内町）

事 業 名　近畿自動車道　関・伊勢線（久居～勢和間）建設事業

調査主体　三重県教育委員会（野田修久）

調査期間　昭和６１年７月７日～７月３０日

調査面積　６９０㎡

概　　要　昨年度の調査で、低い尾根に古墳群が形成されていることがわかったが、今年度の調査は、昨年度の東側で尾根が南に少し膨らんだ区域を対象に行った。その結果、２基の古墳（垣内田１２～１３号墳）が検出された。両墳とも横穴式石室を内部主体とするものであるが、開墾のため墳丘は削平され、石材も抜き取られていた。

遺物も少量であったが、１２号墳からは７世紀前半の須恵器杯蓋片が出土し、１３号墳からは、須恵器杯身・短頸壷や土師器の椀、さらに金環・鍔などの金属製品も出土している。

榾垣外遺跡（ほたがいと）（松阪市矢津町字榾垣外）

事 業 名　近畿自動車道関・伊勢線（久居～勢和間）建設事業

調査主体　三重県教育委員会（野原宏司・野田修久）

調査期間　昭和６１年９月１日～１０月１８日

調査面積　1,６７６㎡

概　　要　松阪市矢津町の八雲八柱神社の南方、勢津川右岸の微高地に所在する。

トレンチ調査により掘立柱跡が確認されたため、発掘調査を行った。その結果、４間×３間・３間×２間の２棟の掘立柱建物と、４ｍ×５ｍの長方形の竪穴住居が検出された。

掘立柱建物は、両方とも総柱建物で、竪穴住居は、東壁にカマドを持つものであった。

出土遺物は、山茶椀、土師器甕などの細片がほとんどであるが、竪穴住居からは、完形に近い須恵器の蓋・杯・土師器の椀と土師器甕・皿の破片が出土している。この須恵器蓋杯は７世紀末のものと考えられ、土師器皿片の内面には放射状暗文が施されている。山茶椀片は掘立柱建物の付近から集中して出土し、鎌倉時代のものと考えられる。

矢津の狭い谷筋でも、遅くとも飛鳥時代から人々が生活していたことを確認

したという点で貴重な資料となった。

薮ノ下遺跡（松阪市岩内町字薮ノ下）

事 業 名　近畿自動車関・伊勢線（久居～勢和間）建設事業

調査主体　三重県教育委員会（田村陽一）

調査期間　昭和６１年６月３０日～１０月３日

調査面積　1,２３０㎡

概　　要　当遺跡は岩内川の形成した扇状地の扇頂付近に位置する。岩内の集落の東はずれに張り出した舌状の微高地に遺跡は立地する。表土下の黄褐色土において平安時代末～鎌倉時代の遺構を検出した。二度の建て替えの跡がみられるものを含め３棟の掘立柱建物、土坑、ピットが検出され、山茶椀、土師器鍋や小皿が出土した。一方、洪水堆積物である砂礫の下層からは多量の縄文土器が出土した。遺構としては3.３ｍ×3.５ｍで焼土を伴なう不定形な土坑とピットを若干検出したにすぎないが、土器は早期末から晩期におよぶものが出土した。しかし中期末から後期初頭の土器がほとんどを占める。良好な資料が多く、当地域の縄文時代を考える上で重要な資料となろう。

平林古墳群（松阪市伊勢寺町）

事 業 名　近畿自動車道関・伊勢線（久居～勢和間）建設事業

調査主体　三重県教育委員会（新田洋・河北秀実）

調査期間　昭和６１年６月９日～１０月１７日

調査面積　4,０２１㎡

概　　要　当古墳群は、堀坂川に沿って突出する舌状の堀坂山麓末端の緩斜地(標高７５～８０ｍ内外）に立地している。今回の調査による新発見の２基（２２・２３号墳）を含む２３基の古墳のうち、道路建設予定地内の８基を調査した。各古墳の調査結果の概要は下記一覧表のとおりである。古墳の造営時期は、６世紀後半から７世紀前葉頃と考えられる。

名　称	墳形（規模）	主体部	玄室　羨道(m)	出　土　遺　物	備　考
２０号墳	円墳　径11　m	横穴式石室	玄室W1.55×L3.0 羨道W0.85×L3.3	須恵器（杯身・杯蓋・短頸壷・広口壷・提瓶） 土師器（甕） 鉄製品（刀子）	左片袖
１９号墳	円墳　径11.5m	横穴式石室	玄室W1.25×L3.7 羨道W1.1　×L3.5	須恵器（杯身・杯蓋・高杯・広口壷・提瓶） 土師器（甕・鍋・椀・ミニチュア高杯） 鉄製品(釘)銅製品(鈴)	右片袖
２２号墳	円墳　径12　m	横穴式石室	玄室W1.4　×L4.5 羨道W1.0　×L3.4	須恵器(杯身･杯蓋･提瓶) 山茶椀・土師器（鍋・皿）	胴張り
８号墳	円墳　径　8　m	竪穴式石室	W0.98×L2.35	須恵器（杯身） 土師器（甕）	
６号墳	円墳　径13　m	横穴式石室	玄室W1.3　×L3.6 羨道W0.83×L4.0	須恵器（杯身・瑞・高杯・提瓶）	右片袖
７号墳	方墳　辺　7　m	横穴式石室	玄室W0.78×—— 羨道 ————	須恵器（提瓶・小壷・特殊扁壷）	
１６号墳	円墳　径12　m	横穴式石室	玄室W0.95×—— 羨道W0.85×L2.4	須恵器（杯身）金環	敷石
２３号墳	円墳　径11　m	横穴式石室	玄室W0.85×—— 羨道 ————	須恵器（瑞）	敷石

平林古墳群調査概要一覧表

天神山古墳群（松阪市岩内町・伊勢寺町）

事 業 名　近畿自動車道関・伊勢線（久居～勢和間）建設事業

調査主体　三重県教育委員会（新田　洋）

調査期間　昭和６１年９月２０日～１１月４日

調査面積　1,７５０㎡

概　　要　岩内町の名刹瑞巌寺を囲む鉢ケ峰、観音岳からのびる山腹斜面や尾根筋には多くの横穴式石室墳がある。天神山古墳は観音岳から伊勢寺町の北村集落から東方に細長くのびる丘陵支脈にかつて１２基余分布していたことが記されており（『松阪市史第二巻・史料編』）、今回、道路予定地内に限ってトレンチを入れた。その結果、６基の古墳の所在が明らかとなり、引き続き本調査を実施した。

調査の結果は下記一覧表のとおりで、横穴式石室を内部主体とする円墳群であることが判明した。中でも１号墳は石室形態、副葬品（須恵器）から６世紀中頃（前半に近い）に比定でき、群中でも古いタイプの横穴式石室墳であることがわかった。この調査によって、かつて所在していた天神山古墳群の一端を窺い知ることができ、また、当古墳群の西方に周知されていた１６基余の瑞巌寺古墳群との関係をも含め、当地域の古墳群の形成等を考える上での貴重な資料となった。

名称	墳　形（規模）	主体部	玄室羨道(m)	出土遺物	時　期	備　考
1号墳	円墳（径約12m）	横穴式石室	W1.8 ×—— W0.9 ×L4.3	須恵器(杯身・杯蓋・提瓶） 土師器（鉢・甕） 鉄鏃・直刀片	６世紀中葉～後半	右片袖
2号墳	円墳（————）	————	———— ————	須恵器（杯蓋・高杯）	７世紀前半	東側の周溝部のみ調査
3号墳	円墳（楕円） 南北径約18m （　　） 東西径約14m	横穴式石室	W1.46×L4.4 W1.0 ×L4.5	須恵器（杯身・杯蓋・高杯・瓶・台付直口壷） 土師器（長頸壷）	６世紀後半～７世紀前半	両袖 玄室床面に敷石

名称	墳　形 （規模）	主体部	玄室羨道(m)	出土遺物	時　期	備　考
4号墳	円墳(径約9m)	横穴式石室	W0.75×—— ——	須恵器(フラスコ形瓶)	——	玄室床面に敷石
5号墳	円墳(径約6.5m)	横穴式石室	W0.85×—— ——	須恵器(杯身・杯蓋・短頸壺) 土師器(椀)	7世紀中頃	
6号墳	円墳(径約6m)	——	—— ——	須恵器(短頸壺)	7世紀前半	土坑状の掘形のみ検出

天神山古墳群調査概要一覧表

横尾古墳群（松阪市岡山町字横尾）

事業名　近畿自道車道関・伊勢線（久居～勢和間）建設事業

調査主体　三重県教育委員会（田中喜久雄、宮田勝功）

調査期間　昭和61年5月31日～12月5日

調査面積　2,500㎡

概　要　横尾古墳群は堀坂山（757m）東麓に広がる丘陵地帯の伊勢湾を眺望できる小支脈（標高90～120m）南東側斜面に立地する。昨年度実施した横尾中世墳墓群は三次にわたる発掘調査の結果、数百基にのぼる墓坑群を検

出、全国屈指の規模であることが判明した。今回の第四次調査は、中世墓群が続く同じ丘陵（Ｄ・Ｅ区）と古墳群のある丘陵（Ｆ・Ｇ区）を対象としたものである。

中世墳墓群　Ｄ区で６基の土坑墓を検出、Ａ～Ｃ区のように群集しておらず墳墓群の中心域から外れた縁辺部であることを確認した。土坑墓はいずれも径約１ｍの不規則な長円形で、うち２基は火葬穴である。埋土中からは炭化物や土師器細片、骨片が出土した。室町期のものと考えられる。

古墳群　古墳は中世墓域東南端（Ｅ区）と小さな谷を隔てた丘陵斜面（Ｆ区）に立地する。Ｅ区に円墳、方墳各１基、Ｆ区に円墳、方墳各１基、計４基で構成される。４基とも７世紀中頃のものと考えられる。２基の円墳はともに片袖式の横穴石室墳で、径約１０ｍ高さ約1.５ｍの墳丘をもち、周溝が巡る。いずれも盗掘されている。主な遺物は須恵器（台付長頸壷・杯・横瓶等）土師器（杯・小形壷・瓶・長胴甕等）金銅環等が出土。２基の方墳はともに木棺直葬墳で、一辺約7.５ｍ、高さ約0.８ｍの墳丘をもち、墳丘裾部に外護列石が巡る。両墳とも墳頂表土下のごく浅いところから須恵器（杯身・杯蓋・高杯）が出土した。

女牛谷古墳群（めうしだに）（松阪市小野町・嬉野町薬王寺）

事 業 名　近畿自動車道関・伊勢線（久居～勢和間）建設事業

調査主体　三重県教育委員会（野原宏司）

調査期間　昭和６１年１２月１５日～１２月２６日（第１次調査）
　　昭和６２年　１月　５日～　２月２１日（第２次調査）

調査面積　約4,０００㎡

概　　要　女牛谷古墳群は、松阪市域北端、嬉野町薬王寺から松阪市小野町にかけてこまかな浅い谷を刻み、東西へひろがる標高約６０ｍ前後の丘陵上に所在する。松阪市と嬉野町の境界はこの丘陵尾根筋にあたり、南北に県道丹生寺・一志線をへだてて、東側へ延びる丘陵には、国史跡向山古墳（前方後方墳）がある。第１次調査は、道路計画路線内の丘陵最頂部を分岐点として南へ延びる支脈に、２ｍ×５０ｍのトレンチを設定した。その結果、尾根頂部において多

数の土器片が出土し、墳丘裾部が認められた（仮名称女牛谷４号墳とする。）。さらに、分岐点から西へ約６０ｍと約１００ｍの尾根筋上に、墳丘状の高まりが存在するため、第２次調査として、範囲を拡大し、古墳の確認調査を引き続き行なった。調査結果は下表のとおりである。なお、主体部の確認等は、来年度、第３次調査として行なう予定である。

古墳名（仮称）	形　状	規模(m)		主　体　部	遺　　物	備　　考
		直径	高さ			
女牛谷　４号墳	不　明	―	3.0	各古墳とも、墳頂部がかなり削平されており、不明であるが、石室の残存が認められないため、木棺直葬等の可能性が高い。	・古式土師器片（壷）	古墳２基と考えられるため、墳形は今後の検討を要する。
５号墳	円　墳	１５	1.0		・須恵器片（杯） ・土師器片（甕） ・金環	
６号墳	円　墳	１２	0.8			墳頂部に中世墓らしき石組（1.5×1.3ｍ）１基。

女牛谷古墳群調査概要一覧表

大河内城堀切（松阪市大河内町字小嵜谷）

事 業 名　近畿自動車道　関・伊勢線（久居～勢和間）建設事業

調査主体　三重県教育委員会（宮田勝功）

調査期間　昭和６２年１月５日～２月２５日

調査面積　1,０２０㎡

概　　要　大河内城堀切は、伊勢国司北畠満雅の弟顕雅の居城である大河内城から南にのびる標高１００ｍほどの尾根に立地する。同尾根筋には堀切が３カ所あり、当堀切りは北（大河内城側）から３番目にあたる。堀切りの規模は、長さ１０ｍ、幅５ｍほどで、遺跡東方の大河内集落の山道として利用されており、一部に削平をうけている。

検出した遺物は、土師器小皿、羽釜形土器の細片にとどまるが、室町時代後期のものである。

嵜谷遺跡（松阪市矢津町字嵜谷）

事 業 名　近畿自動車道関・伊勢線（久居～勢和間）建設事業

調査主体　三重県教育委員会（野原宏司・野田修久）

調査期間　昭和６１年８月２０日～昭和６２年３月１８日

調査面積　約4,７００㎡

概　　要　県指定史跡大河内城跡の西側には、幅４０ｍ程の谷と、それを隔てて標高約９５ｍの丘陵がある。昨年度末に行われた第一次調査の結果、その谷部と丘陵部から中世の土器片が出土し、また、遺構も井戸等が検出され、今年度の本調査となった。特に丘陵部については、養徳寺跡であるとの伝承があり、中世寺院跡を想定しての調査となった。

調査の結果、谷部からは掘立柱建物が３棟検出された。そのうち１棟は、柱根がほとんど残っており、側柱と身舎柱に大小の差があった。丘陵部からは、一石五輪塔を４０基以上使用した石組暗梁排水溝や深さ8.７ｍの石組み井戸、廂を持つとも考えられる掘立柱建物が検出されている。また、丘陵中腹のテラス状の平場からは、小さな溜池と石組遺構（火葬場か）が発見された。

遺物は土師器の薄い皿や鍋、羽釜片が大多数を占めるが、天目茶椀や香炉などの陶器も出土している。他に、谷部からは加工痕のある木材が、また、溜池からは、永録７年（１５６４）の銘が刻まれた五輪塔地輪が出土した。さらに、井戸からは、経文が書かれた薄いこけら経と、銅で鋳造された双耳花瓶が出土した。

今回調査した範囲は、丘陵部・谷部の両方ともその端部だけであり、寺院跡としての確証や建物群の構造等ははっきりしなかった。しかし、「養」と朱書きされた天目茶椀底部、一石五輪塔が多数出土していることを考え合わせると、丘陵部に養徳寺が存在していた可能性が強い。

曲遺跡（松阪市曲町上府殿・庄ノ坪・林添）

事 業 名　県道合ケ野松阪線改良工事

調査主体　松阪市教育委員会（前川嘉宏・榎本義譲）

調査期間　昭和６１年５月１５日～９月８日

調査面積　2,９００㎡

概　　要　曲遺跡は、曲集落を中心として東西９００ｍ、南北７５０ｍの範囲をもつ広大な遺跡である。当事業における発掘調査は、昭和６１年３月に県文化課が行った曲遺跡北端部の試掘調査結果にもとづき、Ａ・Ｂ・Ｃの３地区を２年間で行うことになっている。昭和６１年度は、３地区のうち、Ａ・Ｂの２地区約2,９００㎡の発掘調査を実施した。Ａ地区では遺構らしきものは全く検出できず、出土遺物もごく少量であった。Ｂ地区では、南東隅に土坑を伴う４間×３間の掘立柱建物３棟、２間×２間の掘立柱建物３棟、４間×３間の掘立柱建物１棟等が検出された。中でも、南東隅に土坑を伴う掘立柱建物のあり方や、土坑から出土した１２世紀前半代の良好な一括資料等は、特に注目すべきものである。

上相田遺跡（松阪市伊勢寺町上相田・中谷垣内）

事 業 名　県道丹生寺一志線改良工事

調査主体　松阪市教育委員会（榎本義譲）

調査期間　昭和６２年１月１７日～３月１９日

調査面積　1,２００㎡

概　　要　伊勢寺町荒井集落の北西・伊勢寺神社の南から東にかけて位置する遺跡である。調査は水田区画や道路を境に南からＡ・Ｂ・Ｃと３地区に分けて行った。

Ａ・Ｂ地区の土層は、自然に漸次堆積した状況を示している。第６層は幅10ｍ、厚さ２０㎝の黄褐色砂層で、半完形品ではあるが良好な奈良前期の須恵器土師器が点在して出土した。この遺物を含む黄褐色砂層は、西の調査区外へとのびるものと思われる。遺構については認められなかった。

Ｃ地区は、伊勢寺神社の東側にあたり、遺構密度の濃い地域である。掘立柱建物７棟、石積みの土坑２、溝１条、井戸４基がある。井戸は伏流水が流れる部分に集中しており、素掘りの井戸２基（平安前期、鎌倉初頭）と石組の井戸

２基（鎌倉末～室町）である。石組井戸の１基から残りの良い完形の漆椀が出土している。掘立柱建物の時期については、井戸に伴うものと考えられるが、遺物の詳細な検討が必要である。

なお、Ａ・Ｃ地区については、道路敷の西方へ遺跡が広がっていると考えられ、今後の圃場整備等への対応が望まれる。

五輪山古墳群（松阪市伊勢寺町向山）

事 業 名　県道丹生寺一志線改良工事

調査主体　松阪市教育委員会（榎本義譲）

調査期間　昭和６１年１０月２０日、昭和６２年１月１６日

調査面積　８００㎡

概　　要　松阪市史には、「五輪峠及び向側池の西側の丘陵一帯に造られた全９基の古墳」で、市史の調査時には須恵器片を表採しているが、古墳は「１基も確認できなかった」として、昭和２８年の遺跡台帳に基づき報告がなされている。

今回道路部分にかかるのは、遺跡台帳の８・９号墳と思われたが、調査前の地形測量においても１基も確認できなかった。そこで、尾根に直交する方向で幅1.5ｍのトレンチを６ｍ間隔で設定し、古墳の有無を確認する調査を行った。その結果、南斜面で５基の古墳の周溝を確認した。

３号墳は横穴式石室であったが、他の４基は主体部が削平され不明である。３号墳の石室は羨道と玄室の一部を削りとられ、石材１～２段分が残る程度であるが、床面には棺台に使われた人頭台の石が現位置を保っていた。ほかに土坑墓１基がある。

７世紀前半代築造の古墳群である。

名　称	墳　形(m)	周溝幅(m)	出土遺物
1号墳	円墳　径8.3	1.6～2.0	横瓶・土師甕
2号墳	方墳　7.0×－	1.2～1.9	須恵器片
3号墳	円墳　径9.4	2.3	須恵器（杯身蓋・高杯・フラスコ）他
4号墳	方墳　－×－	1.8～3.7	須恵器（甕・陶棺片）
5号墳	方墳　－×－	0.8～1.2	須恵器（杯身蓋）

五輪山古墳群調査概要一覧表

粥鍋遺跡（松阪市川井町粥鍋）

事業名　松阪市都市計画道跡外五曲・大平尾線建設事業

調査主体　松阪市教育委員会（下村登良夫・前川嘉宏）

調査期間　昭和61年9月25日～11月10日

調査面積　1,700㎡

概　要　粥鍋遺跡は、松阪駅の北西約1.5㎞、川井町集落とJR線とにはさまれた狭い水田地帯に所在する。粥鍋遺跡は道路建設計画に伴う試掘調査によって発見された遺跡で、遺跡全体の範囲は不明である。調査区においては遺構らしい遺構は全く確認できなかったが、保存が良好な多量の遺物が出土した。出土遺物は、ほとんどが弥生時代後期から古墳時代前半にかけての土器である。

伊勢寺廃寺△（松阪市伊勢寺町世古）

事業名　地区集会所建設

調査主体　松阪市教育委員会（下村登良男・前川嘉宏）

調査期間　昭和62年1月7日～1月9日

調査面積　40㎡

概　要　伊勢寺廃寺は、白鳳期に創建され、その後奈良時代から平安時代初めにかけて伽藍整備が行われたと考えられる県指定の史跡である。今回の試掘は、地区集会所建設予定地内のわずか40㎡について行われたものであるが、土のう袋60以上の瓦片が出土した。試掘部分は、寺院廃絶後にかなり深くまで整地が行われたらしく、遺構は全く検出されなかった。

牧瓦窯群７号窯（多気町大字鍬形）

事 業 名　近畿自動車道関・伊勢線（久居～勢和間）建設事業

調査主体　三重県教育委員会（野原宏司）

調査期間　昭和６１年６月９日～８月１５日

調査面積　約２００㎡

概　　要　牧瓦窯群の発掘調査は昨年度、第１次調査（１～３号窯）、第２次調査（４～６・８号窯）を行ない、今回は第３次調査として７号窯のみ調査を実施した。７号窯は県道勢和兄国松阪線から約１５０ｍ南、標高５０ｍの山腹東側斜面に位置し、６号窯の北側に並列する。窯構造は斜面の裾部から上方に向って、斜めにトンネル状にくり貫いたのぼり窯で、焼成室の天井を除き、すべて崩落し、灰原も確認されなかった。窯体の残存度は約7.５ｍと他瓦窯より長く、焚口は間口・高さとも0.７ｍで断面形はかまぼこ型である。焼成室の床面は階段状で長さ6.３ｍ、２０段を数え、床の最大幅は1.２ｍで上段に向ってやや狭くなる。階段床面は瓦を敷き、スサ入り粘土で補修され、繰り返し使用されたことが判明した。出土した軒丸瓦は複弁八葉蓮華文で、牧４号窯と類似する。平瓦は縄目叩きに比して格子目叩きが多く、熨斗瓦や面戸瓦等の道具瓦が見られることが特徴である。７号窯は瓦窯の形態や瓦の製作技法から、白鳳時代末期のものであり、６号窯とほぼ同時期と考えられる。

牧中世墓（多気町大字鍬形）

事 業 名　近畿自動車道関・伊勢線（久居～勢和間）建設事業

調査主体　三重県教育委員会（野原宏司）

調査期間　昭和６１年７月１日～９月６日

調査面積　約５００㎡

概　　要　牧中世墓は、多気町鍬形地内の山林北側斜面に所在し、牧４・８号窯とは県道を隔てて北側に対面する位置にある。当初、牧瓦窯の範囲確認の試掘調査を行ったところ、中世墓と考えられる石組や陶器片を検出した。そのため、牧７号窯の発掘と併行して調査を実施した。その結果、標高５７ｍ前後の斜面

上方側を削って平坦面をつくり、方形に区画した石組を持つ墓を１３基発見した。これらの墓は立地的状況から４つのグループに大別される。蔵骨器に使用された土器から墓の造営時期は１５世紀代と考えられるが、五輪塔などがやや新しい様相を示すことで、石塔類は追善供養として建てたともいえる。墓の形態や出土遺物から、中世社会の習俗を考える上で、貴重な発見となった。なお、各墓の形態・規模・遺物は下表のとおりである。

	外部施設（平面プラン）	規模(m)	内部施設	その他出土遺物	備考
1号墓	長方形の石囲い（2～3段積み）	3.1×1.7	蔵骨器（須恵質甕常滑系壷破片）	五輪塔（空風輪）、骨片	玉砂利を含む封土確認
2号墓	〃（〃）	2.1×1.6	〃（渥美系壷・瀬戸系壷破片）	〃	〃
3号墓	長方形の石囲い	2.1×1.1	〃（土師器羽釜片・茶釜型鍋）	五輪塔（不明）	
4号墓	方形の石囲い（集石有）	1.4×1.1	〃（渥美系鉢破片）	五輪塔（空風輪）	
5号墓	〃	1.4×1.5			
6号墓	長方形の石囲い（集石有）	1.5×1.0		五輪塔（地輪）	石囲いの中に五輪塔有
7号墓	方形の石囲い（集石有）	1.1×0.7			
8号墓	やや円形の石囲い	1.3×1.0			
9号墓	方形の石囲い	0.9×0.6		一石五輪塔（火・水・地輪）	
10号墓	〃（集石有）	1.3×1.2		五輪塔（空風火一体型）	玉砂利を含む封土確認
11号墓	〃	0.7×0.6			
12号墓	集石	1.0×0.5			
13号墓	〃	0.4×0.3			

牧中世調査概要一覧表

近畿自動車道第一次調査実施遺跡一覧

遺跡名	所在地	面積(㎡)	期間	遺構	遺物	担当者	備考
こべき 小戸木遺跡 （南川原）	久居市戸木町字南川原	192㎡	S62. 3. 3～ S62. 3. 5	なし	なし	宮田勝功	グリッド12カ所 （4m×4m）
中尾遺跡	嬉野町大字薬王寺字柿木垣内	93㎡	S62. 3. 4	ピット	土師器、須恵器、山茶椀等	河北秀実	グリッド9カ所
ビハノ谷古墳	嬉野町薬王寺字ビハノ谷	1,000㎡ ～	S62. 3. 2 ～ 3.30	・古墳 基		野原宏司	第1次調査 トレンチ
めうしだに 女牛谷古墳群	松阪市小野町字女牛谷 嬉野町薬王寺	4,031㎡	S61.12.15～ 12.26 （第1次調査） S62. 1. 5～ 2.21 （第2次調査）	・4号墳 ・5号墳 ・6号墳 （仮称） 古墳3基 6号墳頂に中世墓1基有	・4号墳―古式土師器片（壷） ・5号墳―須恵器片(杯) 土師器片(鍋) 耳環	野原宏司	・第1次調査は古墳確認のためのトレンチ。 ・第2次調査は墳丘主体部確認のための検出作業。
おかわち 大河内5号墳	松阪市笹川町坂東1306の2	180㎡	S61. 7.23～ 8.19	なし	・土師器細片 ・山茶椀細片	野田修久	

寺垣内遺跡（多気郡明和町大字金剛坂字寺垣内）

事 業 名　県営圃場整備事業

調査主体　三重県教育委員会（田中久生）明和町（中野敦夫）

調査期間　昭和６１年１０月２３日～昭和６２年２月６日

調査面積　7,６００㎡

概　　要　寺垣内遺跡は、櫛田川右岸の氾濫平野の中にある標高１３ｍの自然堤防上に立地する。規模は、東西２００ｍ、南北５００ｍにおよぶ広範囲であり、そのうち、2,５００㎡については昨年調査されており、それと接するところから始めた。

遺構は、弥生時代の竪穴住居２棟、溝２条、土坑５、方形周溝墓１８基、古墳時代～奈良時代の竪穴住居２４棟、溝３条、土坑１、鎌倉・室町時代の溝５条、井戸４基、土坑１４、中世墓２基が検出されており、中でも中世墓は、隅丸長方形の掘形に常滑焼の大甕を三個体ずつ倒置して埋納したと考えられる珍しいものである。

昨年の発掘調査の成果も含めて考えられることは、弥生時代の方形周溝墓や住居跡など多数遺構が検出されたことから東側の台地上だけでなく、この地でもすでに弥生時代中期から人々が生活していたことが明かになり、また、当遺跡の立地は櫛田川の氾濫が絶えずあったと考えられるところで、古墳時代中期や平安時代の遺構がほとんど見られないことからこの時期に氾濫があり、生活できない状態であったとも考えられる。

砂谷遺跡（度会郡玉城町坂本）

事 業 名　県道田丸斎明線改良工事

調査主体　玉城町教育委員会（中世古憲司）（県文化財調査員 中西正典、大西素行）

調査期間　昭和６２年１２月８日～１２月２０日

調査概要　２８０㎡

概　　要　当遺跡は、県道田丸・斎明線西側に沿う、竹藪の中に位置する。

調査面積は約２８０㎡の急斜面であり、調査は試験的に幅1.４ｍのトレンチ

を東西に入れることから始まったが、急斜面であるため、土器は下の方で流されており、確かな遺構は検出されなかった。出土した土器は、中世のものであった。

竹野鼻遺跡（大宮町大字永会字竹野鼻）

事 業 名　県営畜産経営環境整備事業

調査主体　三重県教育委員会（河瀬信幸）

調査期間　昭和６１年１０月２０日～２５日

調査面積　５７０㎡

概　　要　宮川の支流藤川の左岸段丘上標高約１０８ｍに位置し、すぐ北に曹洞宗宝泉院をひかえ、現況は水田である。調査の結果、中世末を中心とする遺構が検出され、遺物が出土した。

遺構は、中世末と考えられる土坑が２基、及び溝が１条検出された。土坑のうち１基は方形で炭化物を多量に含み、底部に広く火を受けた後があり、火葬に関係する遺構と考えられ、残りの１基は石組みがあり、中世墓的性格を持つものと考えられる。

遺物は土師器鍋片、および青磁片などが少量出土した。

森添遺跡（度会郡度会町上久具森添）

事 業 名　町道学校上久具線・久具都比売橋建設

調査主体　度会町教育委員会（度会町遺跡調査会、奥義次、御村精治、大西素行）

調査期間　昭和６１年７月２１日～８月３１日

　　昭和６１年１０月６日～昭和６２年１月３１日

調査面積　９００㎡（全2,４００㎡のうち）

概　　要　当遺跡は宮川中流域右岸において南方から流れ込む小支流わんだ川との合流点付近に突出する河岸段丘末端の微高地上に位置する。堆積環境にめぐまれた当遺跡では、地表から約５ｍの深さまで砂とシルト混り砂が互層になって堆積しており、調査区内において２３層の土層を確認した。このうち地表下

第２層には飛鳥時代末から奈良時代初頭の竪穴住居跡が検出され、須恵器、土師器が出土した。以下第６層で縄文時代後期末ないし晩期初頭と考えられる径４～５ｍの円形の竪穴住居跡を８棟検出した。うち２棟は住居跡内に石囲い炉をもつ。そのほか同時期と考えられる不定形な土坑を６基検出し、多量の遺物が出土した。さらに第９層には後期後半の石囲い炉２基が検出され、うち１基は火種壷と考えられる埋甕がみられた。このほか配石土坑を伴なう土坑群が検出された。また第１５層上面でも焼土がみられ、中期末ないし後期初頭の土器片が少量出土した。さらに掘り下げ、地表下約４ｍの第１８層でも焼土を検出、土器片が微量出土した。しかし調査区の狭さや深度等から第１５層以下は完掘できなかった。

出土遺物としては、県下初出土の御物石器をはじめ、石冠、石棒、硬玉製の垂飾類や石鏃など、多量の石器類および土器が出土した。土器は縄文晩期の五貫森式、滋賀里式や後期の宮滝式、元住吉山式などが多量に出土しているほか、東北、北陸系の土器が多く入っており、当遺跡への東日本文化の流入が認められる。

このように当遺跡は西日本における有数の縄文時代遺跡として脚光を浴びるに至った。当地方における後期後半から晩期にかけての標式遺跡となろう。

佐八藤波遺跡（そうち）△（伊勢市佐八町字藤波）

事 業 名　佐八小学校新築事業に伴う事前試掘調査

調査主体　伊勢市教育委員会（岩中淳之）

調査期間　昭和６１年１１月２５日～２８日

調査面積　２０８㎡

概　　要　今回の試掘調査は、昭和６３年度新築校舎造成予定地（約4,５００㎡）を対象として４ｍ×４ｍの試掘坑１３カ所を実施した。調査地はちょうど宮川流域でも縄文後期を中心とする遺跡として著名な同遺跡の東南部に位置し、現況は神宮苗園地で標高１５ｍ前後を測る河岸段丘に占地する。

調査の結果、各試掘坑の基本層序は、表土→黒色土（遺物包含層）→地山黄

褐色粘質土、一部礫混り）となり、各試掘坑とも多少の差異はあるものの遺構・遺物が検出された。

主要遺構は、土師器鍋を蔵骨器として利用した土坑墓、溝、土坑、多数の柱穴等で、時期的には１３世紀前後～１５世紀代を中心としたものであった。遺物は、山茶椀、土師器鍋、皿等が中心で、当初期待された縄文期の資料は未検出にとどまった。

以上、今回の調査地は平安末期～室町時代を中心とした遺跡の一部であることは明白であり、造成地の取り扱いについては昭和６２年度秋に本調査を実施することになっている。

寺山城跡△（上地町字上通小字寺山）

事 業 名　宅地造成に伴う事前試掘調査

調査主体　伊勢市教育委員会（岩中淳之）

調査期間　昭和６２年１月１２・１３・１５日

調査面積　６０㎡

概　　要　本城は、東南端部が汁谷川段丘崖（比高約８ｍ）に占地し、北側には伊勢より田丸へ向う街道が並走している。残存遺構は上幅１.８ｍ～２.５ｍ、高さ２.５ｍ前後の土塁が一部宅地化されるもののほぼコの字状に、また、空堀も南と北東の一部に巡っている。

今回、本城の北側の草生地に宅地造成（約１,８００㎡）計画がなされた。本計画地は、城跡の方形郭に隣接するため４×４ｍの試掘坑３カ所の調査を実施した。

調査の結果、各試掘坑の基本層序は置土整地土→旧表土→黒色土→地山（黄褐色粘質土）となり、北側土塁の外側に設定した調査坑以外では遺構・遺物は検出されなかった。この北側土塁北の試掘坑では幅２.０ｍ以上、深さ１.０ｍ以上の空堀が検出され、当初の予想通り土塁外側には空堀が巡っていることが確認された。この空堀は本調査までの期間が長いため完掘していないが、遺構上面では山茶椀、土師器鍋等が出土しており時期の一端が窺える。

本城の取り扱いについては業者と調整中であるが、造成地の境界がちょうど土塁の上幅であり土塁の北側が擁壁されるため、北側土塁の半分および空堀が巡ると想定される範囲の本調査を６２年度に実施する予定である。

近代古墳（上野市上神戸）

事 業 名　県営圃場整備事業

調査主体　三重県教育委員会（仁保晋作）

調査期間　昭和６１年１２月６日～昭和６２年１月１３日

調査面積　1,０００㎡

概　　要　近代古墳は、両側を丘陵によって画された狭い谷合地形の中央部に築造された帆立貝式の前方後円墳である。すでに墳丘の大半が削平消滅しており、周溝の形状によってその規模を復元することができた。全長３０.０ｍ・後円部径２４.０ｍ・前方部長６.０ｍ・同巾１３.０ｍである。主体部も墳丘同様ほとんど原状を留めていないが、木棺をすえた竪穴式石室と考えられる。石室内には、短甲(1)・肩鎧（１対）・鉄刀(3)などの武具・武器が、原位置を保っており、築造の時期については、遺物のセットおよび墳丘上出土の須恵器・埴輪から５世紀中葉から後葉と考えられる。その他の遺物としては、両くびれ部に供献された土師器杯身・高杯・周溝内出土の加工木がある。

四国山遺跡（上野市大字山出字四国山）

事 業 名　一般国道３６８号改良工事

調査主体　三重県教育委員会（久志本鉄也）

調査期間　昭和６１年７月１日～７月２３日

調査面積　約1,６００㎡

概　　要　調査前に方形小郭状遺構と土塁状遺構が認められた。後者は南北５０ｍ、南端付近を最高点としてほぼ直角に折れ、東行する。Ｌ字状の土塁の残欠かと考えたが、トレンチを入れた結果流出土の裾への堆積もほとんどなく、したがって平坦面からの変換点を伴う明瞭な立ち上がりも見られず、人工地形に

は違いないものの城館跡に見られる土塁とは異質である。先に述べた堆積状況から、比較的近時における改変（開墾等）が考えられる。なお出土遺物は皆無であり、平坦面においても建物等の遺構は検出されなかった。

四ノ坪遺跡（上野市上反生字四ノ坪）

事 業 名　県営圃場整備事業

調査主体　三重県教育委員会（稲垣良二）

調査期間　昭和６１年８月８日～８月１５日

調査面積　４８０㎡

概　　要　四ノ坪遺跡は、久米川右岸の標高１７８ｍ前後の河岸段丘上に位置する。幹線排水路部分のみの調査であり、遺跡の全容は不明である。

主な遺構としては、柱列・土坑・石組土坑・溝・ピットなどを検出した。土坑からは、高台が退化し、暗文も粗略化した瓦器椀の完形品が２点出土しており、遺跡の中心時期を１４世紀前半と考えている。他の出土遺物としては、土師器皿・鍋、瓦器椀・皿、擂鉢、甕等が出土している。

安田氏館跡（上野市界外字北浦）

事 業 名　県営圃場整備事業

調査主体　三重県教育委員会（稲垣良二）

調査期間　昭和６１年５月１９日～８月３０日

調査面積　２,０００㎡

概　　要　安田氏館跡は、久米川右岸の、標高約１７１ｍの河岸段丘上位面に立地しており、土塁が半壊の状態で残っていた。昭和初期まで、別の建物が建てられていたらしく、調査区は多くの攪乱、整地を受けていた。

遺構としては、土塁・堀・土坑・井戸・ピット・溝などがあげられる。その時代は、鎌倉時代から昭和期にかけてとさまざまであるが、出土遺物から館の中心時期を１６世紀頃と考えている。

遺物としては、土坑から俗にヘソ皿と呼ばれる土師器の皿が一括で、また、

堀からも擂鉢等が出土しており、良好な資料といえる。他にも、奈良時代の須恵器杯・蓋・甕、鎌倉時代の瓦器椀・皿・土師器皿、室町時代の土師器皿・鍋擂鉢・甕、江戸時代以降の擂鉢・天目茶椀等が出土している。奈良時代の遺物については、遺構に伴うものはなく、包含層出土である。数量的に見ると江戸時代以降のものが非常に多い。

塚本館跡（上野市界外）

事 業 名　昭和６１年度県営圃場整備事業

調査主体　三重県教育委員会（増田安生）

調査期間　昭和６１年７月１日～８月３１日

調査面積　3,０００㎡

概　　要　塚本館跡は、久米川右岸の標高１６７ｍ前後の微高地に立地する。土塁と幅3.６ｍ程度の湿田が残っており館跡とされた。当初高さ2.６ｍの土塁が一辺残っていたが、この土塁は少なくとも、北・西・南の三方にめぐっていたことがわかった。外側に幅５～６ｍで深さ３ｍの堀が３方に掘られていた。(東側は未確認である。）土塁の内側には、幅３ｍ・深さ1.４ｍの内堀がＬ字状になっている。屋敷を区画する幅2.６ｍのＬ字溝があり、１６世紀前半の信楽産擂鉢が出土している。外堀の内側の屋敷地は、１辺５０ｍで、内堀と南外堀で区画される部分は、方４０ｍと推定される。Ｌ字溝が、主屋部分、東南の井戸を持つ部分、西南部分に分割している。主屋部分の西南隅に２間×２間の掘立柱建物が確認された。主屋部分は、柱間が不揃いであり、構造は検討中である。

主な遺物としては、瓦器椀、須恵器甕、信楽産擂鉢、甕、瀬戸産印花文丸皿、菊皿、常滑産甕、土師器皿、肥前産磁器椀、伊賀産甕等がある。

法華堂西館跡（上野市佐那具字法華堂）

事 業 名　荷扱場増築および駐車場造成工事

調査主体　上野市遺跡調査会（西森平之）

調査期間　昭和６１年１２月８日～昭和６２年３月７日

調査面積　2,９７２㎡

概　　要　法華堂西館は、上野市の北東部に広がる府中盆地の東に位置する平地に築造された中世の館で、「三重の中世館」にも〝岡森氏館〟として登載された周知の遺跡である。調査により、幅約８ｍの堀が四周を巡り、その内側に四方土塁が築かれ、側面を栗石で補強した東堀中央部の陸橋によって外部と連絡するという中世城館の姿が明らかとなった。館全体の規模は、東堀が大きく内側寄りに検出され、東西約６０ｍ、南北約６５ｍの方形に近いものとなった。また、宅地部は、開畑や水田化により削平、攪乱されており、柱穴に建物としてのまとまりを欠くが、東部で石組井戸、中央北部で炉跡と考えられる焼土入土坑、中央北部で屋敷墓を想定させる地輪、地蔵を敷いた焼土入土坑、柱穴群等を検出した。さらに下層では、平安時代を中心とする住居跡や土坑が多数出現した。

遺物としては、館の時代に係わるものとして、多量の伊賀焼甕片、擂鉢片、瓦器皿が出土している他、５０個を越える地蔵や五輪塔の各部分が土塁や掘形から出たのは特徴的である。また、灰釉陶器、青磁、白磁、須恵器杯、土師器長胴甕片等、主として平安時代の遺物が、下層および攪乱された土層から出土している。城館の存続は鎌倉～室町時代末頃と想定される。

奥小波田遺跡他△（上野市下友田友生奥小波田他）

事 業 名　上野新都市開発構想区域内埋蔵文化財範囲確認調査

調査主体　上野市遺跡調査会（山本雅靖）

調査期間　昭和６２年３月３日～３月１９日

調査面積　約１３０㎡

概　　要　１９８６年夏に実施した上野新都市開発構想区域内に所在が想定される１１９ケ所の埋蔵文化財包蔵地等について、４カ所を対象として範囲確認調査を実施した。４カ所の調査地点は、No.８３（中友１－７６０２２３－１）、No.１００（中友２－８６０９０５－１）、No.１１２（市４－７５１１１０－１）、No.１１３（市４－７５１１１０－１）である。調査の結果、いずれの箇所から

も、何らかの人為的行為の痕跡が窺われたが、小規模な調査であり、性格等不詳のものが多い。その概要は以下のとおりである。

調査地点	概　　況
83	盛土構築確認、須恵器・土師器・瓦器・陶器などの遺物
100	盛土構築確認、遺物不明
112	盛土は確認されない。土坑状おちこみ有
113	地山整形・盛土、近代の遺物（瓦製祠ー山の神）

桶崎氏城跡・東山古墳（阿山郡阿山町円徳院字東山）

事 業 名　県道甲南上野線道路改良工事

調査主体　三重県教育委員会（仁保晋作・小林直人）

調査期間　昭和61年5月12日～7月17日

調査面積　1,100㎡

概　　要　桶崎氏城・東山古墳は河合川と拓植川の合流点から北東1㎞の水口丘陵南端に位置し、標高195㎞の丘陵先端部の見晴らしのきく所に築かれている。調査区は丘陵の先端部のみであり、中世の遺構として北西隅の土塁、配石が検出され、配石付近で若干の遺物が出土した。

調査区の南側の丘陵先端で新たに発見された東山古墳は、桶先城跡の郭の一部として利用されているので、墳形は判然としない。墳頂の中央部には、遺骸を埋葬した主体部が確認された。主体部は長さ6.8㎞、幅2.3㎞の墓坑を掘り、その中に朱の残されていた部分が検出され、割竹形の木棺を納めていたと推定される。

棺内には、四獣鏡一面、銅鏃3個、剣1振、石製品1点、鉄製品2点の他土師器の高杯・器台が各1点副葬されていた。

鏡は後漢鏡であり、直径14㎝、約半分に割れた状態で出土した。鏡は本来布に包まれていたらしく繊維の付着痕跡も確認された。外側から鋸歯紋帯、複線波紋帯、櫛歯紋帯が並び、21字の漢字の吉祥句「□意自有紀青龍在左白虎居右東王公西王母長保」の銘帯があり、中央には四匹の霊獣のうち三匹が残っ

ている。

向山6号墳（阿山郡大山田村平田字向山）

事 業 名　農林漁業用揮発油税財源身替農道整備事業

調査主体　三重県教育委員会（上村安生）

調査期間　昭和６１年４月１日～６月３日

調査面積　３００㎡

概　　要　布引山脈を源流とする服部川中流域の左岸に位置する小上野・中島・富岡の集落と、山田盆地南面のなだらかに丘陵となる標高２００ｍのラインの間は、段丘となり水田地帯がひろがっている。この段丘を望む山裾には向山古墳群、下中島古墳群、西谷古墳群、神林古墳群、平林古墳群が分布している。

向山古墳もこれら古墳群のひとつで、浅い谷をはさんで1～6号墳が分布している。今回調査を行った6号墳は、昨年度調査した2号墳の西側に位置している。

６号墳は、２号墳と隣接して発見されたが、石室は１段を残すのみであった。６号墳の墳形・規模については、断定できない。石室の形式は横穴式石室で、左片袖、ほぼ東に開口している。石室の全長は、残存で約１１ｍ、玄室の幅は1.６ｍ、長さは4.８ｍ。羨道部の幅は1.４ｍ、長さは9.４ｍである。遺物は、土師器壷・甕・高杯・ミニチュア脚付壷・長頸壷。須恵器の杯身・杯蓋・有蓋高杯・無蓋高杯・器台・短頸壷・提瓶・甕。鉄鏃・刀子が出土している。遺物は、奥壁へかきよせられた状態で出土しており、追葬の際によせられたものと思われる。６号墳の営まれていた時期は、６世紀中頃と考えられる。

菊永氏城跡（阿山郡阿山町大字中友田、上友田）

事 業 名　農林漁業用揮発油税財源身替農道整備事業

調査主体　阿山町遺跡調査会（岡本武和、藤井尚登）

調査期間　昭和６１年５月１６日～１１月７日

調査面積　7,７００㎡

概　　要　菊永氏城は、伊賀盆地の北部、阿山町鞆田地区の古琵琶湖層からなる

水口丘陵の標高２００ｍ前後の丘陵頂上部から南の斜面にかけて築かれた中世城館である。規模は東西約１４０ｍ、南北約１５０ｍにわたると推定され、空堀と堅固な土塁をめぐらした主郭を丘陵頂上部に、南斜面には、階段状に切り込み、削平した８郭を放射状に配置し、自然の地形を利用した縄張りをなしている。

今回の調査では、農道にかかる主郭および３つの郭を中心に行い、その結果、建て替えを含め１０棟の掘立柱建物跡、門跡、井戸、溝、土坑、空堀、柱列等を検出した。出土遺物は、伊賀・信楽産の擂鉢、甕、瀬戸・美濃産の天目茶椀、灰釉皿、仏花瓶、茶入れ、輸入陶磁の白磁皿、青磁片、土師器の鍋、皿、完形に近い茶釜、鉛製の火縄銃の弾丸、鉄製品、砥石、石臼の破片があげられる。

出土した瀬戸・美濃産陶器では、１４世紀代に比定される仏花瓶が、もっとも古いが、大半は、大窯のⅠ期、Ⅱ期の製品と考えられ、城存続の中心時期を１５世紀末から１６世紀の後半以降と推定し、城廃絶の時期も天正年間の織田信長による伊賀侵攻から、その後の豊臣秀吉による伊賀土豪の城郭破却を命じられた脇坂安治による統治の前後ではなかったかと考えている。

中戸遺跡（名張市赤目町大字相楽字中戸）

事 業 名　県営圃場整備事業

調査主体　三重県教育委員会（仁保晋作）

調査期間　昭和６１年１０月２２日～１１月３０日

調査面積　1,６００㎡

概　　要　中戸遺跡は、名張盆地南部の室生山地からゆるやかに延びる丘陵の先端部に立地する縄文時代から平安時代にかけて断続的に営まれた複合遺跡である。

調査の結果、縄文時代後期の竪穴住居２棟、配石遺構、楕円不整形土坑、それに伴なう土器、石器によって構成された居住空間を形成し、若干の晩期の土器片を含む。以後、弥生中期に至って再び、生活の跡を残すが、竪穴住居は認められず、溝によって画された方形周溝墓が４基営まれる。また、遺跡北西

端においては、平安時代の掘立柱建物が検出された。

下垣内遺跡（名張市赤目町星川）

事 業 名　県営圃場整備事業

調査主体　三重県教育委員会（仁保晋作）

調査期間　昭和６１年１０月２日～１０月２１日

調査面積　1,０００㎡

概　　要　下垣内遺跡は、古墳時代後期の竪穴住居を初現として、鎌倉時代まで断続的に営まれた複合遺跡である。遺構は検出されなかったが、弥生時代後期の土器片・石器も見られる。発掘区東半には、奈良時代の方形掘形をもつ掘立柱建物が集中し、西半には、鎌倉時代の４間×４間の大形の掘立柱建物が認められる。遺跡は扇状地扇端部全域にひろがるものと考えられる。

夏見廃寺（名張市夏見字赤坂）

事 業 名　重要遺跡範囲確認調査

調査主体　名張市教育委員会（水口昌也）

調査期間　昭和６１年６月２日～１０月３１日

調査面積　約８００㎡

概　　要　昭和５９年度から進めてきた夏見廃寺の発掘調査は第三年度を迎え、寺域北限の確認調査と、講堂跡の発掘調査を実施し、ほぼ寺域の範囲と主要伽藍の配置を確認することができた。寺域は、東西と北は溝で限られ、南は柵或いは築地と推定される一本柱の列で限られていたと考えられる。規模は東西約84ｍ、南北約７６ｍを計る。この内東南の隅は約２.５ｍ下がった谷水田となっており、西南部の谷底にあたる地域は寺域から除かれていたと思われる。

伽藍配置は、西に金堂、東に塔を配置するが、講堂は金堂後方の北側になく、金堂の南西部に位置し正面を東に向けた南北棟の建物である。

今回の講堂跡の発掘調査では、原位置を保った礎石が１３個検出され建物規模を復元することができた。即ち桁行５間、梁行２間の身舎の四面に廂が付く

建物で、柱間寸法は、桁行、梁行とも３ｍの等間隔で廂幅約2.７ｍとなる。基壇は、東側の正面中央部で長さ約6.９ｍにわたって川原石の化粧が残っており、廂の礎石中心から約２ｍを計る、このことから基壇規模を復元すると東西幅15.4ｍ、南北24.4ｍとなる。遺物は、講堂床面から多量の土師器皿をはじめ塑像破片、古銭、塼仏等が出土した。この内出土遺物の中心をなす土師器の多くは、講堂の廃絶期のものと推定され、１０世紀後半のものである。

下川原遺跡（しもがわら）（名張市夏見字下川原）

事 業 名　市道青蓮寺名張線改良工事

調査主体　名張市遺跡調査会（門田了三）

調査期間　昭和６１年６月２日～８月１日

調査面積　７００㎡

概　　要　下川原遺跡は、名張市の中央部、名張川の南岸に広がる水田地帯に位置する集落跡で、標高１９８.５ｍを計る。調査地の北端は旧名張川の流路と思われ段差がつき、遺跡地はいわゆる自然堤防状の微高地上に立地する。調査の結果縄文時代後期前葉の竪穴住居１棟、弥生時代中期の竪穴住居４棟、溝状土坑１基、土坑墓状土坑３基、土器棺１基、その他多くの土坑を検出した。

縄文時代後期の竪穴住居からは多量の土器が出土し、後期前葉から中葉にかけての北白川上層式２期に比定されるものである。弥生時代の住居は平面形が円形と方形とがあり、円形から方形に移行する時期が中期後半ととらえられた。

上山古墳群（うえやま）（名張市夏見字上山）

事 業 名　宅地開発事業

調査主体　名張市遺跡調査会（門田了三）

調査期間　昭和６１年８月７日～１０月９日

調査面積　2,０００㎡（古墳５基）

概　　要　名張市のほぼ中央を西流する名張川と青蓮寺川が合流する、標高230ｍを計る山林に位置する。宅地造成計画の進入路予定地のため現状保存は困難

であった。調査した5基の古墳はいずれも横穴式石室を主体とするもので、丘頂部に位置する9号墳が最も規模が大きい。出土遺物から6世紀後半よりの中頃の築造と考えられる。玄室内には組合せ式石棺（内寸1.8m×0.7m、高65cm）が遺存しており側壁は一枚岩を使うなど伊賀で最大規模のものである。8号、14号、7号墳は、ともに6世紀後半築造のもので、7号墳からは銅製かんざしが出土している。13号墳は、これらの古墳にはさまれるように中央部に位置し、7世紀前半に築造されたものである。玄室内には、溶結凝灰岩の板石でつくられた復式の組合せ式石棺が遺存していた。なお13号墳は、保護協定に基づき、宅地造成計画の緑地内に、業者負担により移築保存された。移設工法は安全面管理面に重点をおき、なおかつ原形に近い復元をした。

名　称	墳形・周隍	墳丘規模	石　室　規　模	遺　　物
9号墳	円墳　なし	直径15m	全長7.2m玄室幅2.3m	子持ち高杯
			片袖　　玄室長3.4m	馬具
8号墳	円墳　有り	直径12m	全長7.0m玄室幅1.5m	耳環1
			両袖　　玄室長3.5m	
14号墳	円墳　有り	直径12m	全長7.0m玄室幅1.6m	耳環1
			両袖　　玄室長3.2m	
7号墳	不明　有り	直径12m	全長6.7m玄室幅1.7m	銅製かんざし
			両袖　　玄室長3.1m	耳環3
13号墳	円墳　有り	直径12m	全長5.4m玄室幅1.5m	耳環1
			両袖　　玄室長2.7m	

上山古墳群調査概要一覧表

下中島古墳群（阿山郡大山田村大字平田字下中島）

事 業 名　農林漁業用揮発油税財源身替農道整備事業

調査主体　三重県教育委員会（調査指導）三重大学人文学部教授　八賀　　晋

調査期間　昭和６１年８月１日～９月１３日

調査面積　1,８００㎡

概　　要　下中島古墳群は、服部川左岸の標高２１０ｍ前後の丘陵上に位置する。古墳群は、全１０基が確認され、うち道路内に含まれる横穴式石室墳３基・土坑墓１基を調査した。各古墳の調査概要は下表によるが、とくに２古墳は、径１6.０ｍと最大の規模をもち、羨道部と玄の境に板石を置いて段差をもつ石室を内部主体としている。築造時期は、６世紀中期から７世紀末まで断続的に営まれている。なお、調査には、三重大学歴史学研究会の協力を得た。

	古墳の形	古墳の規模	石室の形	全長	玄室		羨道部		遺物		
					幅	長	幅	長	土師器	須恵器	お の 他
1号墳	円墳	１０m	横穴式石室（右片袖）（ほぼ北東に開口）	4.1m	2.7m	2.7m	0.6m	1.4m	小形壷	杯身、杯蓋、無蓋高杯、甕	金環 鉄鎌 鉄鏃
2号墳	円墳	１６m（推定）	横穴式石室（両袖式）（ほぼ北東に開口）	11.2m	5.3m	5.3m	玄門 1.2m 羨門 1.7m	5.9m	壷 甕	杯身、杯蓋、有甕高杯、無蓋高杯提瓶、平瓶、装飾器台、子持壷	金環、石突馬具（鞍）管玉、有孔円盤小玉、切子玉
3号墳	不明	不 明	横穴式石室（右片袖）（ほぼ東に開口）	4.3m	2.7m 2.7m	2.7m	1.0m	1.6m	小形壷	杯身、提瓶、甕高杯	金環、勾玉刀子、紡錘車、鉄鏃管玉、小玉白玉
土坑墓	—	2.8m	—	2.8m	—	—	—	—	ナ シ	杯蓋、提瓶小形短頸壷小形横瓶	ナ シ

斎宮跡※（明和町斎宮）

事 業 名　重要遺構確認調査

調査主体　三重県教育委員会（三重県斎宮跡調査事務所）

調査期間　昭和６１年５月７日～昭和６２年２月８日

調査面積　7,２８５㎡

概　　要

調査次数	調 査 地 区	調査面積	調査期間	地 番 ・ 地 籍	所有者	備　考
65－ 1	6ACC－M	㎡ 425	61. 5. 7～ 61. 6.13	明和町斎宮字塚山	個　人	計画的面調査
65－ 2	6AEG－S	510	61. 5.16～ 61. 7.11	明和町斎宮字楽殿 2908－2　他	明和町	計画的面調査
65－ 3	6AEI－L・N	400		明和町斎宮字楽殿 2917－4　他	明和町	計画的面調査
66	6AGG－C	1,700	61. 7.15～ 61.10.15	明和町斎宮字東加座	個　人	計画的面調査
67	6ABF	1,350	61. 9.29～ 61.11.13	明和町竹川字古里 523　他	明和町	計画的面調査
68	6ABF	1,500	61.11.18～ 62. 2.27	明和町竹川字古里 502　他	明和町	計画的面調査
69	6AGM－E～H	1,400	61.12.11～ 62. 2. 8	明和町斎宮字東加座	個　人	計画的面調査

斎宮跡※（明和町斎宮）

事 業 名　史跡現状変更

調査主体　明和町教育委員会（三重県斎宮跡調査事務所）

調査期間　昭和６１年５月７日～昭和６２年３月２８日

調査面積　1,８４５㎡

概　　要

調査次数	調査地区	調査面積	調査期間	地番・地籍	所有者	備考
64－1	6ACO－H	㎡ 143	61. 5. 7～ 61. 5.20	明和町斎宮字牛葉 3395－1 他	株トーカイ	個人住宅
64－2	6AGL－F	200	61. 5.23～ 61. 6.13	明和町斎宮字東加座	個人	盛土及び事務所駐車場
64－3	6ADD－A	140	61. 6.16～ 61. 7. 4	明和町斎宮字篠林	個人	農業用倉庫新設
64－4	6AGR－N	16	61. 7. 8～ 61. 7.12	明和町斎宮字苗川	個人	個人住宅
64－5	6ACM－R・Q・O	150	61. 7.11～ 61. 7.15	明和町竹川字東裏 3385－2	明和町	校地整備
64－6	6ACK	76	61.10.20～ 61.10.22	明和町竹川字東裏 361－2	竹川自治会田所潔	ゲートボール場の新設
64－7	6AGI－G	820	61.11.18～ 61.12.17	明和町斎宮字東加座	個人	テニスコート等の新設
64－8	6AGR－J	57	61.11.26～ 61.12. 1	明和町斎宮字苗川	個人	個人住宅
64－9	6ADQ－M	45	62. 1.26～ 62. 1.29	明和町斎宮字牛葉地内	明和町	町道側溝
64－10	6ACF－A	40	62. 2.16～ 62. 2.17	明和町竹川字東裏	個人	農業用倉庫新設
64－11	6ACM－O	54	62. 2.23～ 62. 2.28	明和町竹川字東裏 3385－2	斎小建設委員会	飼育舎・観察池設置
64－12	6ADE－B	104	62. 3. 9～ 62. 3.28	明和町斎宮字篠林	個人	個人住宅

Ⅳ 調 査 結 果 の 公 開

1. 三重県埋蔵文化財展

三重県埋蔵文化財展は三重県教育委員会が主催し、昭和５６年度から各市町村を会場に毎年実施している。三重県教育委員会が実施した発掘調査の成果を中心に市町村が主体となって実施した発掘調査の成果もあわせて展示して広く県民に公開、社会教育の一環として埋蔵文化財保護思想の普及啓蒙に努めている。本年度は第６回を迎え、津市高茶屋の津南郊ショッピングセンター・サンバレーを会場に、昭和６２年１月２９日から２月３日までの会期で実施した。

今回は「古代の人々のくらしといのり」を主テーマに祭祀や宗教に関連する遺跡や遺物を中心に展示した。朝日町縄生廃寺や嬉野町辻垣内瓦窯出土の鴟尾に来場者の関心が集まり、各報道機関も大きくとりあげた。期間中の総入場者数は3,０８０名であった。

（第６回　三重県埋蔵文化財展開催要項）

1. 目的　県内で実施した埋蔵文化財発掘調査により出土した遺物と関連資料を公開展示し、県民に埋蔵文化財に対する啓発と普及をはかり、文化財保護意識の高揚をはかる。
2. 主催　三重県教育委員会
3. 協賛　中勢教育事務所管内各市町村教育委員会
4. 期間　昭和６２年１月２９日（木）～２月３日（火）　10:00～18:30
5. 場所　津市高茶屋　津南郊ショッピングセンター　サンバレー　２Ｆ　催事場
6. 展示テーマ　「古代の人々のくらしといのり」
7. 主要展示遺物と関連資料

別　表

時代	展示品	出土遺跡	保管者等
縄文時代	土偶	大鼻遺跡	県教委
	玦状耳飾	樋谷遺跡	〃
	土版	西出遺跡	県教委
	耳栓	森添遺跡	度会町
	御物石器	〃	〃
	岩偶	佐八遺跡	伊勢市
	土器	薮ノ下遺跡	県教委
弥生時代	櫛	納所遺跡	県教委
	琴	〃	〃
	小型銅鐸	草山遺跡	松阪市
	土製鐸	上箕田遺跡	鈴鹿市
	穿孔土器	納所遺跡	県教委
	絵画土器	〃	〃
	朱彩土器	〃	〃
古墳時代	滑石製模造品	土山遺跡	名張市
	子持勾玉	上村遺跡	津市
	手焙型土器	納所遺跡	県教委
	土製人形他	草山遺跡	松阪市
	銅鏡	茶臼山古墳	県教委
	玉類	大塚古墳	県教委

時代	展示品	出土遺跡	保管者等
古墳時代	ハニワ	中ノ庄遺跡	県教委
	刀・剣	前山古墳	〃
	〃	茶臼山古墳	〃
	小型須恵器	平田古墳	安濃町
飛鳥時代	瓦	天花寺廃寺	県教委
	塼仏	〃	〃
	押出仏	鳥居古墳	県博物館
	鎮壇具	縄生廃寺	朝日町
	鴟尾	辻垣内瓦窯群	嬉野町
奈良平安時代	土馬	斎宮跡	県教委
	人形	杉垣内遺跡	県教委
	人画書土器	斎宮跡	県教委
	斎串	五佐奈遺跡	県教委
中世	和鏡	横尾墳墓群	県教委
	土塔	正法寺遺跡	関町
	銅製五輪塔	南山遺跡	松阪市
	木札	赤堀遺跡	四日市
	蔵骨器	横尾墳墓群	県教委

2. 近畿自動車道発掘調査報告会

毎年、三重県埋蔵文化財発掘調査報告会を開催し、県及び市町村教育委員会（遺跡調査会）が前年度に行った発掘調査成果を、スライド上映と若干の遺物展示とも伴せて、県民に埋蔵文化財を理解していただく機会としている。今回は、松阪市において、近畿自動車道の発掘調査の報告を中心として開催した。

（近畿自動車道発掘調査報告会開催要項）

(1) 目　的

昭和６０年度中に実施した県下の遺跡発掘件数は７９件に及ぶ。その内訳は、

県及び市町村が調査主体となって実施したものがそれぞれ３７件、他に遺跡調査会によるものが５件ある。各遺跡発掘調査は、調査途中あるいは終了段階で地元を中心とした現地説明会を開催し、埋蔵文化財の理解と認識を広めている。さらに、埋蔵文化財への一層の理解と保護思想の普及をはかるために、６０年度中に実施した発掘調査の成果の一部を一般公開し、県民の文化的要求にこたえるものである。

(2) 開催体制

主　催　　三重県教育委員会

協　賛　　松阪市教育委員会

(3) 日時及び場所

昭和６１年８月２日（土）　午後１時３０分～５時

松阪中央公民館３Ｆ

＜松阪市殿町　TEL　0598−53−4474＞

(4) 報告内容

① あいさつ

② 各遺跡報告

・横尾墳墓群（松阪市岡山町他）

鎌倉～室町時代の墓地群

・牧瓦窯群（多気町牧）

白鳳時代の瓦窯

・垣内田遺跡（松阪市岩内町）

６～７世紀の横穴式石室古墳

③ 講演会

「横穴式石室墳と須恵器」

講　師　　八　賀　　晋氏（三重大学人文学部教授）

(5) その他

遺跡の概要説明は、各遺跡発掘担当者が、スライド等を使用して実施する。

3. 発掘遺跡現地説明会

発掘調査の途中、あるいは終了時には地域の人々に対し、文化財保護に理解を深めていただくため、現地説明会を開催し、調査結果について報告を行っている。県教育委員会が調査主体となった発掘調査に係る現地説明会は下表のとおりである。

遺跡名	所在地	主催者	開催日	参加人数
向山古墳群	阿山郡大山田村大字平田	文化課	61. 6. 8	70名
斎宮跡第65次	多気郡明和町大字斎宮	斎宮跡調査事務所	61. 6. 8	350名
東山古墳・桶先氏城	阿山郡阿山町大字円徳院	文化課	61. 7. 13	160名
安田氏城・塚本館跡	上野市上友生	文化課	61. 8. 30	80名
大鼻遺跡	亀山市大岡寺町	文化課	61. 8. 30	120名
橋門遺跡	鈴鹿市三宅町	文化課	61. 8. 31	70名
牧7号窯・牧中世墓	多気郡多気町大字牧・鍬形	文化課	61. 9. 6	70名
斎宮跡第66次	多気郡明和町大字斎宮	斎宮跡調査事務所	61. 9. 7	230名
薮ノ下遺跡	松阪市岩内町	文化課	61. 9. 13	50名
平林古墳群	松阪市伊勢寺町	文化課	61. 9. 13	50名
下中島古墳群	阿山郡大山田村大字平田	文化課	61. 9. 20	60名
横尾古墳群	松阪市伊勢寺町ほか	文化課	61. 9. 27	70名
杉垣内遺跡	松阪市深長町	文化課	61. 10. 5	80名
斎宮跡第67次	多気郡明和町大字斎宮	斎宮跡調査事務所	61. 11. 2	180名
中戸遺跡	名張市赤目町	文化課	61. 12. 29	30名
堂ノ後遺跡・深長古墳	松阪市深長町	文化課	61. 12. 7	70名
下之庄東方遺跡	一志郡嬉野町大字中川	文化課	62. 1. 31	100名
斎宮跡第68・69次	多気郡明和町大字斎宮	斎宮跡調査事務所	62. 2. 1	230名
寺垣内遺跡	多気郡明和町大字金剛坂	文化課	62. 2. 1	130名

4. 保管遺物等の貸出し・写真等の掲催許可

県教育委員会が保管している県内各地から出土した遺物の展示会等への貸出し、写真撮影・掲載許可等については、一定の手続きのもとに応じている。

申請者	目的	貸出品		期間	許可日
大山田村教育委員会	「埋蔵文化財展」	前山古墳		61. 11. 13	
		高杯	2点	～	61. 11. 13
		提瓶		61. 11. 18	
		平瓶			
		広口壷			
		杯	2点		
		杯蓋	2点		
		銀象嵌鉄刀柄頭			
		銀象嵌鉄刀鞘尻			
		パネル	8点		
		展示台	14点		
		ビデオテープ	1巻		
(財)四日市市文化振興財団	“知ってみよう四日市„	智積廃寺			
	ふるさと探訪展	土師器	1点	61. 8. 12	61. 8. 12
	～掘り出されたふるさとの歴史～	須恵器	4点	～	
		孤塚1号墳		61. 8. 26	
		須恵器	3点		
		落河原遺跡			
		土師器	3点		
		須恵器	3点		
		石帯	1点		
		土錘	3点		
		西ケ広遺跡			
		弥生土器	4点		
		須恵器	16点		

申請者	目的	貸出品	期間	許可日
雄山閣出版株式会社	「弥生文化の研究」第9巻 弥生人の世界掲載 (雄山閣出版刊行、 金関恕・佐原真編集)	納所遺跡 壷の写真　1葉		61. 7. 3
愛知県陶磁資料館	愛知県陶磁資料館企画展 「東海の土師器・須恵器」	古里遺跡 土師器　1点 茶臼山古墳 須恵器　2点 神前山1号墳 須恵器　1点 平林7号墳 須恵器　1点 平林6号墳 須恵器　1点 北堀池遺跡 土師器　1点 納所遺跡 土師器　3点 中ノ庄遺跡 馬形埴輪　1点 カウジデン遺跡 土馬　1点	62. 3. 23 〜 62. 6. 23	62. 3. 16
雄山閣出版株式会社	「弥生文化の研究」第8巻 祭生人の祭と墓と装い掲載 (雄山閣出版刊行 金関恕・佐原真編集)	納所遺跡 琴型木製品の写真　2葉		

申請者	目的	貸出品		期間	許可日
嬉野町教育委員会	嬉野町文化祭	天華寺廃寺		61. 10. 31	61. 10. 31
		塼仏	33点	～	
		軒丸瓦	4点	61. 11. 4	
		軒平瓦	4点		
		ヘラ書平瓦	1点		
亀山市教育委員会	郷土資料展	大鼻遺跡出土		61. 11. 18	61. 11. 7
	「埋蔵文化財　亀山の縄文文化」	土偶	1点	～	
		深鉢	2点	61. 11. 30	
		耳栓	1点		
		槍先	1点		
		石鏃	3点		
		壷	2点		
			1点		
		須恵器	3点		
		土師器	7点		
		陶器	10点		
		青磁	1点		
		白磁片	7点		
		銅銭	9点		
		パネル	13点		
		山城遺跡			
		深鉢	8点		
		土師器	8点		
		須恵器	3点		
		砥石	1点		
		木製品	1点		

申請者	目的	貸出品	期間	許可日
		山茶椀　10点		
		皿　5点		
		片口小瓶　2点		
		北瀬古遺跡		
		深鉢　4点		
		谷山古墳		
		埴輪　2点		
		首飾り　4点		
八戸市教育委員会	八戸市博物館特別展 「弥生時代一米づくりの始まる頃」	中ノ庄遺跡 弥生土器　9点	61. 10. 1 〜 61. 12. 20	61. 9. 26
鈴鹿市教育委員会	講演会 「上箕田遺跡と弥生時代の人々のくらし」	神大寺遺跡 須恵器高杯　1点 大木ノ輪遺跡 皿　2点 納所遺跡 石斧　1点 石包丁　1点 石鏃　2点 大木ノ輪遺跡遺構アルバムNo.2 写真パネル等　7点	61. 10. 23 〜 61. 10. 27	61. 10. 21
多気町教育委員会	多気町町民展覧会	牧瓦窯跡 軒丸瓦　3点 軒平瓦　2点 写真パネル　5枚	61. 10. 17 〜 61. 10. 20	61. 10. 15

申請者	目的	貸出品		期間	許可日
三雲町教育委員会	三雲町文化祭	中ノ庄遺跡		61. 10. 31	61. 10. 15
		埴輪（人物、馬形、円筒）	3点	～	
		弥生土器	7点	61. 11. 4	
津市教育委員会	第15回郷土史展	納所遺跡		61. 8. 20	61.
	「津の弥生時代」	壷	21点	～	
		蓋	3点	61. 9. 3	
			1点		
		鉢	5点		
		パイプ型土器	1点		
		石槍	1点		
			1点		
		手焙型土器	2点		
		鏃	5点		
		石小刀	3点		
		紡錘車	2点		
		石鏃	2点		
		鋤	2点		
		石斧の柄	3点		
		槌	1点		
			1点		
		琴型木製品	1点		
		スコップ	1点		
		堅櫛	1点		
		亀井遺跡			
		双脚壷	1点		

申請者	目的	貸出品	期間	許可日
		高松弥生墳墓		
		壷　1点		
		高杯　2点		
		甕　1点（高松C）		
		器台　1点		
桑名市在良小学校	社会科教材	大谷遺跡	61. 6. 19	61. 6. 12
		土師器　1点	～	
		須恵器　6点	61. 6. 30	
		スライド　20枚		
三重県立美術館	「三重の美術風土を探る一	天華寺廃寺	61. 9. 25	61. 6. 24
	古代・中世の宗教と造型」	塼仏	～	
			61. 11. 29	
奈良県立橿原考古学研究所	特別展・唐古鍵遺跡調査	納所遺跡出土	61. 10. 6	
附属博物館	50周年記念	手焙型土器　1点	～	
	弥生人のメッセージ		61. 11. 29	
	「絵画と記号」			

付〔１〕　〔開発と文化財の取扱いについての調整、調査等に関する事務処理等の標準についての文化庁通知〕

６１保記第４０号
昭和６１年４月２８日

各都道府県教育委員会教育長　殿

文化庁文化財保護部
記念物課長　田村　誠

開発と文化財の取扱いについての調整、調査等に関する事務処理等の標準について（通知）

このたび宅地開発事業に伴う埋蔵文化財の取扱いについて、建設省と協力して別添「開発と文化財の取扱いについての調整、調査等に関する事務処理等の標準」（以下「標準」という。）を取りまとめました。

この標準は、主として宅地開発事業者に対し埋蔵文化財への早期の対応を促すものであり、今後、建設省は、宅地開発事業に伴う埋蔵文化財の取扱いについて、この標準を参考とするよう都道府県の土木部局等を通じて事業者を指導することになっています。

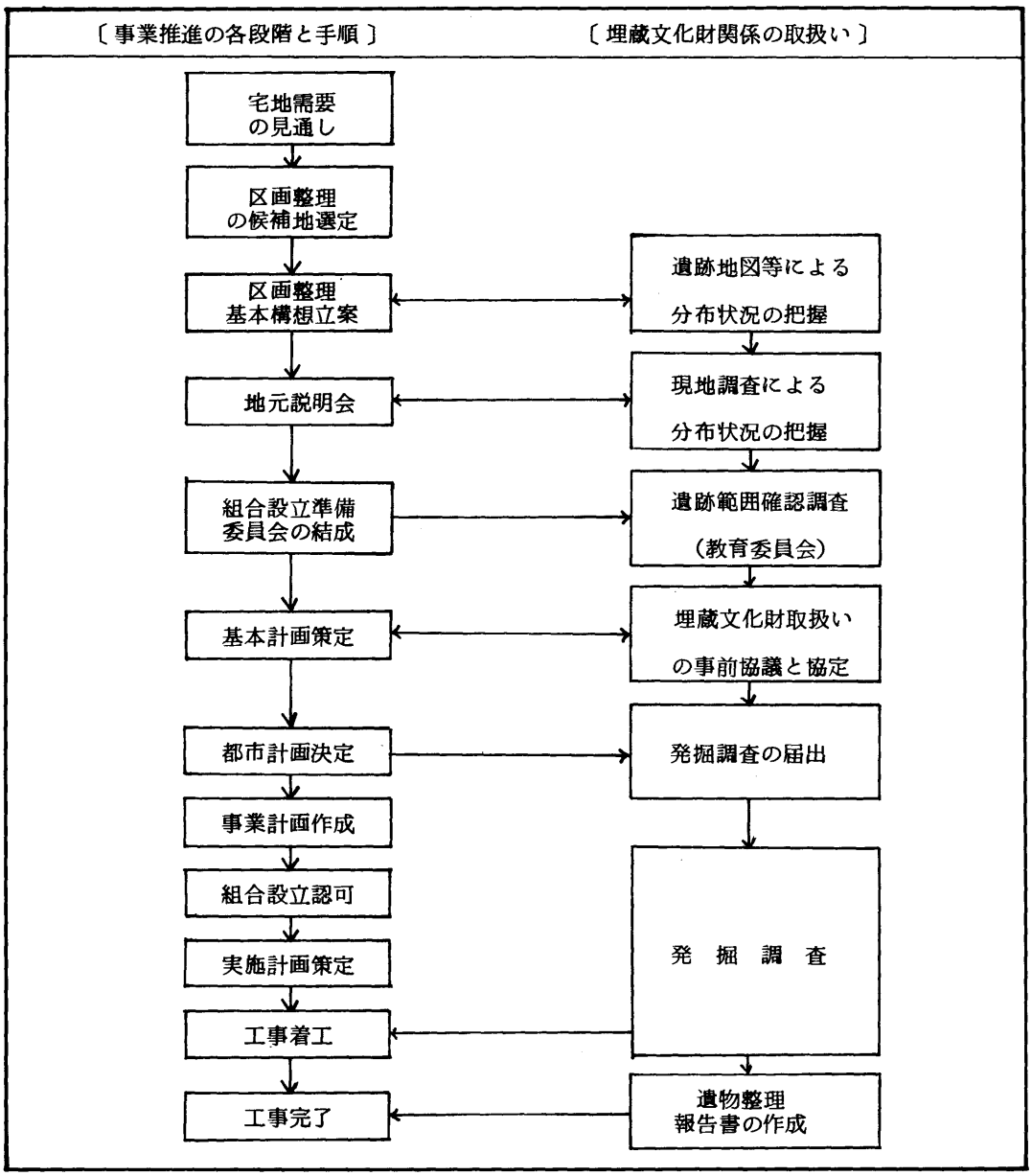
ついては、貴職においても、宅地開発事業に伴う埋蔵文化財の取扱いについては、従前の通知によるとともに、今後、この標準を参考にして対応してください。

おって、貴管下各市町村教育委員会に対し、この趣旨の徹底を図るとともに、適切な指導をお願いします。

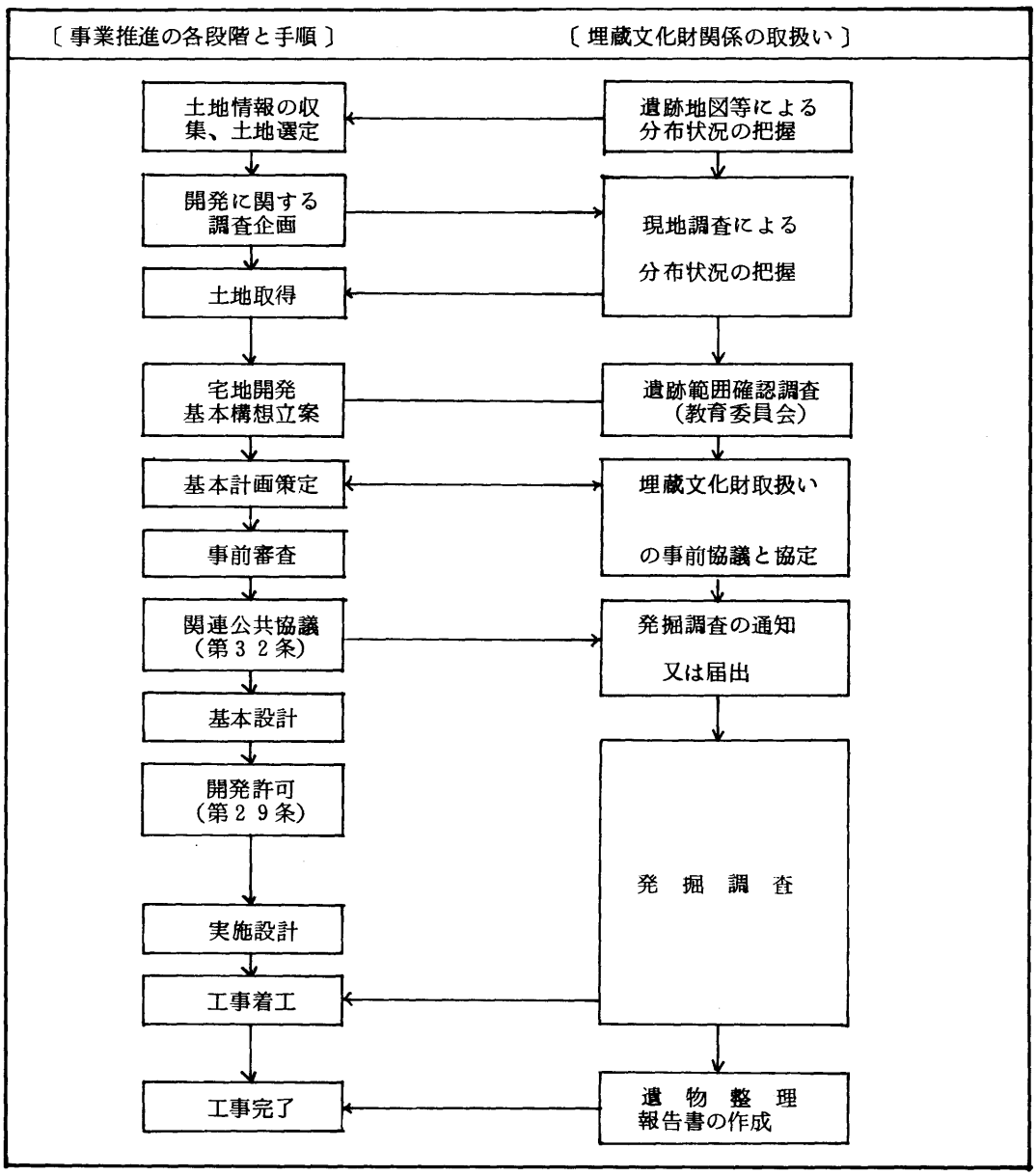
別添　　**開発と文化財の取扱いについての調整、**

調査等に関する事務処理等の標準

(1)　組合等施行土地区画整理事業



(2) 都市計画法第２９条の許可に係る宅地開発事業



付〔２〕　〔三重県文化財調査員設置要綱〕

沿革　昭和52年５月１日施行
昭和53年５月１日改正
昭和59年11月１日改正

（目　的）

第１条　三重県内に所在する埋蔵文化財を中心とし、必要に応じてその他の有形文化財、民俗文化財、史跡名勝天然記念物（以下「文化財」という。）の保護の万全を図るため、三重県文化財調査員（以下「文化財調査員」という。）を設置する。

（任　務）

第２条　文化財調査員は、次に掲げる調査事項に従事する。

(1)　三重県文化財パトロール事業における文化財の巡視及び調査

(2)　国、県営の各種土木建設事業における文化財の分布及び確認調査

(3)　埋蔵文化財発掘調査における調査協力

(4)　その他、文化財の保護に関し必要と認める調査

（定　数）

第３条　文化財調査員の定数は、６０人以内とする。

（任　用）

第４条　文化財調査員は、地方公務員法第３条第３項第３号の規定により任用する。

2.　文化財調査員は、大学において考古学、歴史学を専攻した者又は、それに準ずる専門的知識を有する者のうちから、教育委員会が任命する。

3.　文化財調査員の任用期間は１年とし、再任することができる。

（勤務条件等）

第５条　文化財調査員の勤務条件、事務処理その他服務に関し必要な事項は、教育長の承認を得て別に定める。

（報酬の額）

第６条　文化財調査員の報酬の額は、特別職に属する非常勤職員の報酬及び費用弁償に関する条例（昭和３６年条例第３号）第２条の別表の規定に基づき教育長が別に定める。

（費用弁償）

第７条　文化財調査員の費用弁償の額は、職員等の旅費に関する条例（昭和３２年条例第46号）に規定する行政職４等級の職務にある者に支給される旅費の額に相当する額とする。

（公務災害補償）

第８条　文化財調査員にかかる公務災害補償は議会の議員その他非常勤の職員の公務災害補償等に関する条例（昭和４２年条例第43号）の定めるところによる。

（補　則）

第９条　この要綱に定めるもののほか、文化財調査員に関し必要な事項は、教育長の承認を得て別に定める。

附　則

1.　この要綱は、昭和５９年１１月１日から施行する。

付〔３〕　〔昭和６１年度　三重県文化財調査員一覧〕

地区	氏名	勤務先	勤務地	勤務先電話
桑名・員弁・三重・四日市・鈴鹿・亀山	伊東春夫	自営		
	松本覚	東員第二中		
	片岡雅章	桑名高		
	岩脇彰	石榑小		
	大場範久	石薬師高		
	三浦儀直	若松小		
	石井剛	※菰野中		
	安川富春	※関中		
	桐生定己	西笹川中		
	福田典明	西笹川中		
津・安芸・一志・久居	河合良成	自営		
	浅生悦生	一身田中		
	下井彰	東観中		
	本堂弘之	高宮小		
	津村善博	久居中		
	宮崎洋史			
	小林和彦	安濃小		
松阪・多気・飯南・飯高	世古且守	第四小		
	奥義次	宇治山田高		
	福田昭	多気中		
	岡本好雅	山室山小		
	三井博之	※宮川中		
	福田哲也	鎌田中		
	西田尚史	勢和小		
	前葛敏文	朝見小		
伊勢・鳥羽・志摩・度会	中西健	小俣中		
	山崎富三郎	※早修小		
	村上喜雄	安楽島小		
	御村精治	小俣中		

地区	氏名	勤務先	勤務地	勤務先電話
伊勢・度会・鳥羽・志摩	竹内正弘	間崎小		
	中世古祥道	自営		
	伊藤保	自営		
	大西素行	外城田小		
	東浩成	志摩高		
	江尻健	七保第二小		
上野・名張・阿山・名賀	市田進一			
	松山謙治	※壬生野小		
	奥西勲	桔梗が丘南小		
	松鹿昭二	名張高		
	寺岡光三	会社員		
	福井健二			
	竹内英雄	桔梗が丘中		
	中山暁	崇広中		
	谷戸実	赤目小		
	前川依久雄	丸山中		
北牟婁・尾鷲	伊藤良			
	湊章治	※長島高		
南牟婁・熊野	福村直人	阿田和小		
	田中安弘	遊木小		
	古部均	井田小		

○勤務先欄　※印は教頭職

○本人が勤務地市町村に住んでいない場合は、本人の居住地を（　）内に示す。

付〔４〕　〔昭和６１年度三重県文化財パトロール実施要項〕

1. 趣　旨

県下における指定文化財（国・県）及び埋蔵文化財包蔵地（以下文化財という。）を巡視し常時文化財の管理・保存状況を把握し、適切な処置を講じて、文化財保護の万全を期する。

2. 活動内容

(1) 文化財管理、保存状況把握のための巡視

(2) 所有者等に対する文化財の保護管理指導

(3) 巡視、保護管理指導についての結果報告

(4) 文化財保護思想についての普及活動

(5) その他文化財の保護保存に関すること。

3. 期　間

昭和61年５月１日～昭和62年３月31日

4. 事業の実施について

(1) 事業は、各教育事務所が執行するものとし、各教育事務所長は実施計画書（様式１）を２期にわけて、三重県教育委員会文化課長に提出する。

(2) 文化財パトロールは、三重県教育委員会が任命した三重県文化財調査員が、前項実施計画書に基づき、実施する。

(3) 三重県文化財調査員は、文化財パトロール実施報告書（様式２）を毎月末までに各教育事務所長に提出し、各教育事務所長はとりまとめて翌月１０日までに文化課長に提出する※なお、緊急事態が発生した場合は、電話その他の方法により、すみやかに関係教育事務所に報告する。

※（その写しを関係市町村教育委員会へも送付）

(4) 各教育事務所長は、緊急事態の状況に応じて、文化課長及び関係市町村教育委員会に連絡する。

(5) 文化課長は、前項の状況により、早急に文化財パトロールカーを出動させ、文化財の保護対策を講じる。

(6) 事業の執行にかかる経費は、２期にわけて予算を令達する。各教育事務所長は、全事業終了後、すみやかに実績報告書（様式３）を文化課長に提出する。

（昭和62年４月２日までに）

(7) その他必要な事項は、そのつど文化課長が指示する。

<様式1……B5判>

文化財パトロール
実施計画書

（昭和　年　月　日 ～ 昭和　年　月　日）

月　日	調査員名	パトロール地区	内　容	備　考

<様式2……B5判>

文化財パトロール実施報告書

経　由	昭和　年　日　教育事務所　所長印		
文化財 パトロール地区 調査年月日 調査員			
文化財の名称		所在地	調査事項
報告事項			※裏面に、問題箇所、見取図、写真等記入のこと。
備　考			

<様式3……B5判>

昭和　　年度　文化財パトロール事業実績報告

昭和　　年　　月　　日付け第　　号で事業施行の通知のあった文化財パトロール実績について、下記の通り報告します。

記

1. 文化財パトロールの実績

月　　日	調　査　員	パトロール地区	備　　考

2. 支　出　証　明　書

項　　目	令　達　額	支　出　額	内　　訳
			※　旅費については、行き先、回数を明記すること。

付〔5〕　〔昭和61年度埋蔵文化財発掘技術者研修実施要項〕

1. 目　的

埋蔵文化財の発掘調査および保存についての専門的知識と技術の習得につとめようとする者を、県外の埋蔵文化財関係研究機関に派遣し研修を受けさせるとともに、県内においても現地研修を実施し、埋蔵文化財の保護体制の強化に資することを目的とする。

2. 主　催

三重県教育委員会

3. 期　間

昭和61年4月1日から翌年3月31日まで

県外研修　3カ月間

県内研修　9カ月間

4. 場　所

県外　奈良市二条町　奈良国立文化財研究所　平城宮跡発掘調査部

奈良国立文化財研究所　埋蔵文化財センター

橿原市木之本町　奈良国立文化財研究所　飛鳥藤原宮跡発掘調査部

県内　発掘調査現場・斎宮跡調査事務所

5. 人　員

4名（内訳　高校1名・中学校1名・小学校2名）

6. 参加資格

(1) 県内の小中高校の教職員のうちで、大学において考古学・歴史学を専攻、もしくは発掘調査の経験を有する者。

(2) 健康で現場作業に従事することのできる者で、昭和26年4月以降生れである者

7. 研修内容

(1) 講　義

総論　・文化財の保護

各論　・文化財保護法

・史跡・埋蔵文化財保護の現状

・発掘調査方法

調査計画、墳墓・集落・生産所窯・宮殿・官衙・寺院跡の調査

・遺物調査方法

実測原理、土器・土製品・石器木製品・瓦の観察と整理、人骨動植物遺体の調査

・関係学概説

建築構造、測量、保存科学、文献史学

・報告書作成方法　等

(2) 実　習

・発掘調査実習、測量実習、遺跡実測実習写真撮影実習、遺物保存処理実習　等

8. 講　師　奈良国立文化財研究所技官・県係員　他

9. そ の 他

(1) 研修者の旅費は、県の旅費規程にしたがって支給する。

(2) 研修期間中は、当該学校に対し教員の補充がなされる。

(3) 研修を終了した者には、修了証書を交付する。

付〔6〕　〔文化財保護の指導要項〕

① 適用の範囲

文化財保護法・県条例の適用を受ける開発事業および文化財の所在地の形質の変更について適用する。

② 文化財の所在の確認

(1) 史跡・名勝・天然記念物

㋑ 文化財地図・文化財台帳・文化財一覧表によって照合する。

㋺ 開発区域内の文化財確認調査を実施する。この場合は、県教育委員会文化課の認める者により現地において確認調査を行ない調査報告書を提出させる。

(2) 埋蔵文化財

㋑ 遺跡地図・遺跡台帳によって照合する。

㋺ 開発区域内の遺跡分布調査を実施する。この場合についても現地において県文化財調査員または、県教育委員会文化課の認める者による分布調査を行ない調査報告書（書式2）を提出させる。

③ 文化財の保存方法

(1) 史跡・名勝・天然記念物

㋑ 開発区域より除外する。

㋺ 文化財の周囲で開発事業を実施する場合には、維持・管理方法および環境変化を検討し、保存に影響のないよう考慮する。

(2) 埋蔵文化財

㋑ 現状保存とする。ただし整備して保存する場合は、整備計画書を提出させる。

㋺ 発掘調査を必要とする場合は、現状保存が困難な事由を説明し、その箇所の開発事業設計図面（平面図、縦断面図）および発掘調査計画書ならびに調査計画図面を提出させる。ただし、保存の可否は発掘調査終了後その結果にもとづき決定する。

(3) 保存については保護措置書（書式1）を提出させるとともに覚書もしくは協定書を締結する。

④ 経費の負担

文化財確認調査・遺跡分布調査・発掘調査および保存に要する経費は、原則として原因者負担とする。

（書式１）　　年　月　日

文化財の保護措置

教育委員会教育長殿

住所

事業主　氏名　　㊞

電話

事業地	市郡　町村　大字	計画面積	㎡
事業名			
文化財地図・台帳 遺跡地図・台帳との照合			
文化財調査	年　月　日		
調査担当者			
文化財保護協定の締結	年　月　日	遺跡発見届	年　月　日
該当文化財の名称	保護措置		
備考			

※　分布調査の結果、確認されなかった場合は、その旨を備考欄に記入のこと。

（書式２）　　（1/100 ～ 1/3000 の地図を添付）

文化財調査報告書

<table>
<tr><td>事業地</td><td colspan="3">市郡　町村大字</td><td>計画面積</td><td>㎡</td></tr>
<tr><td rowspan="2">事業名</td><td colspan="3">住所
名称
代表者氏名

電話</td><td>事業名</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="5"></td></tr>
<tr><td>調査担当者</td><td colspan="5"></td></tr>
<tr><td>調査期間</td><td colspan="5">年　月　日 ～　年　月　日（　　）</td></tr>
<tr><td>調査地の概況</td><td colspan="5">（現況地目・地形等）</td></tr>
<tr><td>調査方法</td><td colspan="5"></td></tr>
<tr><td rowspan="2">文化財の概況</td><td>名称</td><td colspan="2">規模・現状・出土品</td><td colspan="2">備考（時代）</td></tr>
<tr><td></td><td colspan="2"></td><td colspan="2"></td></tr>
<tr><td>備考</td><td colspan="5"></td></tr>
</table>

〔 付〔7〕　〔埋蔵文化財発掘通知・届出一覧表〕

<法第98条の2による通知>

遺跡名	所在地	事業名	面積（㎡）	通知者	受付年月日
岡山遺跡	員弁郡員弁町東一色字岡山	県営圃場整備事業	1,000	県教委教育長職務代理者教育次長　市川年夫	61. 10. 29
大谷遺跡	〃　〃　〃字奥田	〃	2,700	〃	61. 10. 29
下小原古墳群	〃　大安町大字石榑東中大野地内	道路拡張及び歩道整備	62,825	大安町教委教育長　川島洋五	61. 4. 18
薬師前大貝戸遺跡	〃　〃　大字門前字薬師前字大貝戸	県営圃場整備事業	330	三重県教委教育長　中林　博	61. 10. 18
シャコジ遺跡	〃　〃　大字石榑東字楠木	〃	50	県教委教育長職務代理者教育次長　市川年夫	61. 10. 29
山田遺跡	〃　東員町大字山田字南林1686—2他	中央公民館建設	25,931	東員町教委教育長　日置辰生	61. 5. 31
観成寺跡	〃　藤原町大字上相馬字観成寺	県営圃場整備事業	3,900	県教委教育長職務代理者教育次長　市川年夫	61. 10. 29
名倉遺跡	四日市市采女町字焼山4064他	土地区画整理事業	112	四日市市教委教育長　岡田久江	61. 10. 22
金光寺跡	三重郡朝日町大字縄生字中谷	特別高圧送電線路川越火力線新設	847.74	朝日町教委教育長　水谷光治	61. 9. 3
柴戸古墳・柴戸包蔵地狐田古墳	亀山市栄町字柴戸川合町字狐田	公園造成		亀山市教委教育長　麻生　直	61. 12. 1
扇広遺跡	鈴鹿市高岡町扇広	区画整理事業	100	鈴鹿市教委教育長　神尾　博	61. 4. 5
橋門遺跡	〃　三宅町字橋門1012	県営圃場整備事業	3,600	県教委教育長　中林　博	61. 5. 19
片田古墳群	津市片田町地内	ゴルフ場開発		津市教委教育長　田岡草生	62. 2. 10
上原遺跡	安芸郡美里村大字五百野字今里	県営圃場整備事業	890	県教委教育長　中林　博	61. 9. 17
今徳遺跡	〃　安濃町大字今徳	〃	470	〃	61. 10. 18
長田・寺平尾遺跡	久居市稲葉町大字長田寺平尾	〃	3,600	〃	61. 12. 10
岩ノ谷遺跡	一志郡一志町波瀬字岩ノ谷2994	ため池新設	100	一志町教委教育長　小畑　長	62. 2. 26
算所遺跡	〃　白山町算所	県営圃場整備事業	1,300	県教委教育長　中林　博	61. 7. 28
上出遺跡	〃　〃　山田野字上出	〃	400	〃	61. 10. 1
下之庄東方遺跡	〃　嬉野町下之庄中川	中村川河川改修	16,000	〃	61. 7. 5
東野遺跡	〃　〃　大字森本字東野	県営圃場整備事業	2,200	〃	61. 12. 10
鼓ノ下遺跡	松阪市岩内町字鼓ノ下366他	近畿自動車道建設事業	1,000	〃	61. 5. 19
垣内田遺跡	〃　〃　字垣内田	〃	600	〃	〃
平林古墳群	〃　伊勢寺町2071	〃	2,600	〃	〃
横尾墳墓群	〃　岡山町字横尾1—19他	〃	2,500	〃	〃
曲遺跡	〃　曲町字上府殿地内	県道合ケ野松阪線改良事業	9,300	松阪市教委教育長　三井貞司	61. 5. 9
粥鍋遺跡	〃　川井町字粥鍋	近畿自動車道アクセス道建設	2,000	〃	61. 8. 30
坂東古墳	〃　笹川町	近畿自動車道建設事業	180	県教育教育長　中林　博	61. 9. 29
岩谷遺跡	〃　矢津町	〃	5,000	〃	〃

遺跡名	所在地	事業名	面積（㎡）	通知者	受付年月日
大河内城堀切	松阪市大河内町	近畿自動車道建設事業	500	県教委教育長 中林博	61. 12. 10
女牛谷3号墳	〃 小野町	〃	225	〃	〃
杉垣内遺跡	〃 深長町字杉垣内	県営圃場整備事業	8,070	〃	〃
伊勢寺跡	〃 伊勢寺町字世古	地区公民館建設	50	松阪市教委教育長 三井貞司	62. 1. 20
上相田遺跡	〃 〃 字中谷垣内 字上相田	近畿自動車道関連県道改良工事	1,500	〃	62. 2. 5
牧瓦窯跡	多気郡多気町大字鍬形字鍋島	近畿自動車道建設	200	県教委教育長 中林博	61. 5. 19
釈尊寺遺跡	〃 〃 〃	県営かんがい排水事業	260	〃	61. 12. 10
佐八藤波遺跡	伊勢市佐八町字藤波2278番地	小学校校舎新設	320	伊勢市教委教育長 永田司郎	61. 9. 12
砂谷遺跡	度会郡玉城町坂本408―8～10	サニーロード建設事業	270	玉城町教委教育長 岩崎澄雄	61. 12. 15
切石遺跡	〃 二見町大字松下字切石1782―6	造船職員生活協同組合施設建設	231	二見町教委教育長 角谷芋之助	61. 9. 12
上久具森添遺跡	〃 度会町上具字森添74～76番地	橋梁整備事業	2,400	度会町教委教育長 大北友夫	61. 8. 12
安田氏館跡	上野市界外字北裏	県営圃場整備事業	1,000	県教委教育長 中林博	61. 5. 14
夏見廃寺跡	名張市夏見字赤坂2360	遺跡整備	250	名張市教委教育長 福森毅	61. 5. 12
下垣内B遺跡	〃 赤目町星川字油田	県営圃場整備事業	1,000	県教委教育長 中林博	61. 10. 18
中戸遺跡	〃 〃 相楽字中戸	〃	2,400	〃	〃
樋先城跡	阿山郡阿山町大字円徳院	県道甲南上野線改良工事	3,750	〃	61. 5. 14
向山6号墳	〃 大山田村大字平田字向山	揮発油税財源身替農道整備事業	300	〃	〃
下中島古墳群	〃 〃 〃 字西谷	〃	1,800	〃	61. 12. 10

<法第57条の1による届出>

遺跡名	所在地	事業名	面積（㎡）	届出者	受付年月日
南山古墳群	鈴鹿市河田町字中谷山1068	進入道路新設工事	675	鈴鹿市遺跡調査会長 神尾博	61. 6. 23
大木ノ輪遺跡	〃 上箕田町字石津	市道改良工事	1,620	〃	〃
中大谷古墳	安芸郡安濃町大字中川1332他	農村総合整備モデル事業、農業集落道整備事業道路改良	630	安濃町遺跡調査会理事長 茂生峯一	61. 8. 20
四反畑遺跡	一志郡嬉野町大字中川他	県道嬉野飯高線道路改良	8,000	嬉野町遺跡調査会長 寺田信次朗	61. 5. 1
法華堂西宅跡	上野市佐那具町字法華堂868他	荷扱場増築及び駐車場工事	2,972	上野市遺跡調査会理事長 米澤昇	61. 10. 13
奥小波田遺跡	〃 中友生西湯谷 下友生奥波田他	上野新都市開発に伴う範囲確認	300	〃	62. 2. 3
黒石B遺跡	名張市瀬古口字黒石152―1番地	店舗建設	24	名張市遺跡調査会会長 福森毅	61. 5. 26
下河原遺跡	〃 夏見字下川原278の6番地他	道路改良	700	〃	61. 6. 4
上山古墳群	〃 〃 字上山1751番地他	住宅地造成	2,000	〃	61. 7. 29
菊永氏城跡	阿山郡阿山町中友田字亀山1805番地他	県道甲南上野線道路改良	7,700	阿山町遺跡調査会長 北川弘	61. 5. 2

<法第57条の2による届出>

遺跡名	所在地	事業名	面積（㎡）	届出者	受付年月日
名倉遺跡	四日市市采女町字焼山4064番地他	区画整備	7313.91	采女土地区画整理組合 理事長 坂晶	61. 5. 20
山奥遺跡	〃 大字羽津戊字山之奥14番1他	幼稚園新築移転	11,120	学校法人あおい学園理事 佐藤隆	62. 2. 24
金光寺跡	三重郡朝日町大字縄生字中谷2442他	送電線及び鉄塔の新設	1,825	中部電力株式会社取締役津支店長 太田四郎	61. 7. 15
縄生廃寺	〃 〃 〃 字北谷2676—2他	〃	830	〃 〃	62. 2. 17
扇広遺跡	鈴鹿市高岡町字茶山1425の1他	区画整備事業	436,000	高岡土地区画整理事業代表 森義明	61. 4. 5
渋見砦	津市渋見町字城578—4他	宅地造成	4031.37	大幸開発株式会社代表取締役 服部幸男	61. 8. 15
片田古墳群	〃片田町地内	ゴルフ場開発	1,650,000	片田振興株式会社代表取締役 植中倫子	62. 2. 3
岩ノ谷遺跡	一志郡一志町波瀬字岩ノ谷	ため池新設	100		62. 2. 26
切石遺跡	度会郡二見町大字松下字切石1782—6	宅地開発	231	造船職員消費生活協同組合代表理事竹内春久	61. 9. 12
法華堂西宅跡	上野市佐奈具字法華堂871—1他	荷捌場の増築及び駐車場工事	2,972	三重西濃運輸株式会社取締役社長 伊川常雄	61. 10. 13
黒石B遺跡	名張市瀬古口字黒石152—1他	店舗建設	1,825	別所書店代表取締役 別所業啓	61. 5. 26
上山古墳群	〃 夏見字上山1751番地	住宅地造成	661,000	近鉄不動産株式会社取締役社長 砂田純男	61. 7. 29

<法第57条の3による通知>

遺跡名	所在地	事業名	面積（㎡）	通知者	受付年月日
山田遺跡	員弁郡東員町大字山田字南林1686の2他	中央公民館建設	25,931	東員町長 中村敏和	61. 5. 31
下小原古墳群	〃 大安町大字石榑東字中大野地内	道路拡幅及び歩道設置	62,825	大安町長 萩野治郎	61. 4. 18
柴戸古墳、柴戸包蔵地狐田古墳	亀山市栄町字柴戸 川合町字狐田	公園造成	69,000	亀山市長 今井正郎	61. 5. 20
大木ノ輪遺跡	鈴鹿市上箕田町字石津 12番地他	市道改良工事	1,620	鈴鹿市長 野村仲三郎	61. 6. 23
南山古墳群	〃 河田町字中谷山1068他	進入道路新設工事	6,497	〃 〃	61. 6. 23
走り下城館跡	鈴鹿郡関町会下字走り下1116他	工場団地造成	806,000	亀山市土地開発公社理事長 今井正郎	61. 5. 20
稲葉C・神宅南長野A遺跡	安芸郡美里村大字五百野字今里1104	県営運場整備事業	2,570	三重県知事 田川亮三	61. 7. 14
中大谷古墳	〃 安濃町大字中川1332他		630	安濃町長 荒木清	61. 8. 15
今徳遺跡	〃 〃 大字今徳字石間1943	県営運場整備事業	470	三重県知事 田川亮三	61. 7. 14
稲葉E・F遺跡	久居市稲葉町字寺平尾1934	〃	2,140	〃 〃	〃
片野遺跡	一志郡一志町片野字内山576番地の6他	道路新設舗装	331.49	一志町長 井田憲二	61. 7. 11
西出山古墳	〃 〃 大字八太字西出山31番地の2他	一志町水道施設整備	2,953.17	〃 〃	62. 2. 9
算所・上出遺跡	〃 白山町大字山田野字上出 八対野字算所	県営運場整備事業	1,300	三重県知事 田川亮三	61. 7. 14
東野・屋敷田遺跡	〃 嬉野町大字森本字東野111 屋敷田694	〃	750	〃 〃	〃
粥鍋遺跡	松阪市川井町字粥鍋985の3番地	近畿自動車道アクセス道路整備	11,316.6	松阪市長 三井貞司	61. 8. 1
杉垣内・堂ノ後遺跡	〃 深長町字垣内304他 堂ノ後230他	県営運場整備事業	110,000	三重県知事 田川亮三	61. 9. 29

遺跡名	所在地	事業名	面積（㎡）	通知者	受付年月日
西沖・赤城遺跡	松阪市野村町西沖9他 美濃田町赤城749他	県営圃場整備事業	92,000	三重県知事　田川亮三	61. 9. 29
釈尊寺遺跡	多気郡多気町大字鍬形	県営かんがい排水事業	6,000	〃　〃	61. 7. 14
佐八藤波遺跡	伊勢市佐八町字藤波2278番地	佐八小学校校舎改築	5,728	伊勢市教育長　永田司郎	61. 9. 12
勝田遺跡	度会郡玉城町大字藤田字上ノ山405—1	県道度会玉城線道路改良	2,400	三重県知事　田川亮三	61. 3. 31
森添遺跡	〃　度会町上久具字森添88番地他	橋梁整備	6,452	度会町長　山下孫一	61. 4. 8
安田氏館跡	上野市上友生北の垣内184他	県営圃場整備事業	59,000	三重県知事　田川亮三	61. 5. 1
塚本館跡	〃　界外北裏476他	〃	83,000	〃　〃	〃
下垣内B遺跡	名張市赤目町星川字油田272他	〃	126,000	〃　〃	〃
中戸遺跡	〃　〃　相楽字中戸145他	〃	110,000	〃　〃	〃
下河原遺跡	〃　夏見字下河原278の6番地他	市道改良工事	3,950	名張市長　永岡茂之	61. 6. 4
下中島古墳群	阿山郡大山田村大字平田字西谷1553—1	農林漁業用揮発油税財源身替農道整備事業			61. 10. 31

付〔８〕　　〔三重県埋蔵文化財認定通知物件〕

物件名	認定日	出土地	出土年月日	発見者	土地所有者	現保管場所
須恵器、甕片・杯身杯蓋・俵瓶・刀子・銀張製耳飾・土師器皿・長甕・瓦器椀以上整理箱３杯分	61. 7. 7	名賀郡青山町岡田向	60. 11. 25	青山遺跡調査会会長上出　芳照		青山町教育委員会
弥生・縄文土器整理箱２３箱段ボール箱１２箱	61. 7. 7	鳥羽市安楽島町大字贄212番地の１他	61. 2. 20		宝塚エンタープライズ株式会社代表取締役伊藤　興朗	鳥羽市文化財展示室
菱環鈕２式横帯文銅鐸片　１個	61. 7. 7	鈴鹿市高岡町字東ノ岡	61. 4. 4			
瀬戸瓶子４、二耳壷１、山皿１、常滑甕３、椀１	61. 7. 7	鳥羽市石鏡町字経塚	61. 4. 21	鳥羽市教育委員会教育長西村　文彦	鳥羽市役所	鳥羽市文化財展示室
銅鐸１個、銅鐸破片３片	61. 10. 3	津市高茶屋小森町字四ッ野1429―5	61. 7. 30		明石住建株式会社代表者白銀　愛子	三重県教育委員会
銅鐸破片２３片、土器破片８６片	61. 10. 3	津市高茶屋小森町字四ッ野1429―5	61. 8. 18		明石住建株式会社代表者白銀　愛子	〃
銅鐸破片４片、土器破片３８片	61. 10. 3	津市高茶屋小森町字四ッ野1429―5	61. 9. 1	津市教育委員会社会教育課萱室　康光	明石住建株式会社代表者白銀　愛子	〃
土器類（須恵器、土師器、山茶椀、弥生土器）破片１５箱	61. 11. 8	安芸郡安濃町大字妙法寺字木羽佐間丸岡	59. 6. 18 から 61. 9. 16	安濃町遺跡調査会会長浅生　峯一	菱水産業株式会社代表取締役	安濃町教育委員会

物　件　名	認定日	出　土　地	出土年月日	発　見　者	土地所有者	現 保管場所
完形土器類（復元品も含む）３１８点 鉄器類（刀剣、やじり、釘、斧、のみ、鏃先、他）６０点 玉類６９点、金環９点、銅鈴２点、古銭５点、石器類（やじり、斧、錐、石包、磨石、叩石、スクレイパー他110点						
茶釜、天目茶碗、土師質鍋、すり鉢、土師質皿、鉄製品、甕その他土器片多数 整理箱１５箱	61. 11. 28	阿山郡阿山町大字上友田中友田字向山・亀山	61. 9. 2	阿山町遺跡調査会会長 北川　弘	三重県知事 田川　亮三	阿山町役場
土師器、整理箱１箱	62. 1. 24	四日市市采女町字焼山	61. 12. 9	四日市市教育委員会教育長 岡田　久江		四日市市教育委員会社会教育課分室

三重県教育委員会

文　化　課　　津市広明町１３　三重県庁内７階
（電）　０５９２―２４―２９８６～２９８８

藤方分室
津市藤方２２８３―1
（電）　０５９２―２４―４５６０

埋蔵文化財桜橋整理所
津市桜橋２丁目
（電）　０５９２―２７―２４６５

埋蔵文化財上野整理所
上野市丸之内１１７
（電）　０５９５―２４―００７９

近畿自動車道埋蔵文化財発掘調査整理所
松阪市丹生寺町６３０
（電）　０５９８―５８―０２８３

一般国道１号亀山バイパス埋蔵文化財発掘調査整理所
亀山市和田町字西野１２７８―9
（電）　０５９８―２―２５８１

中村川埋蔵文化財発掘調査整理所
一志郡嬉野町川北５３０
農業技術センター内
（電）　０５９８４―２―４８０２

三重県斎宮跡調査事務所
多気郡明和町大字斎宮
（電）　０５９６５―２―１７３２